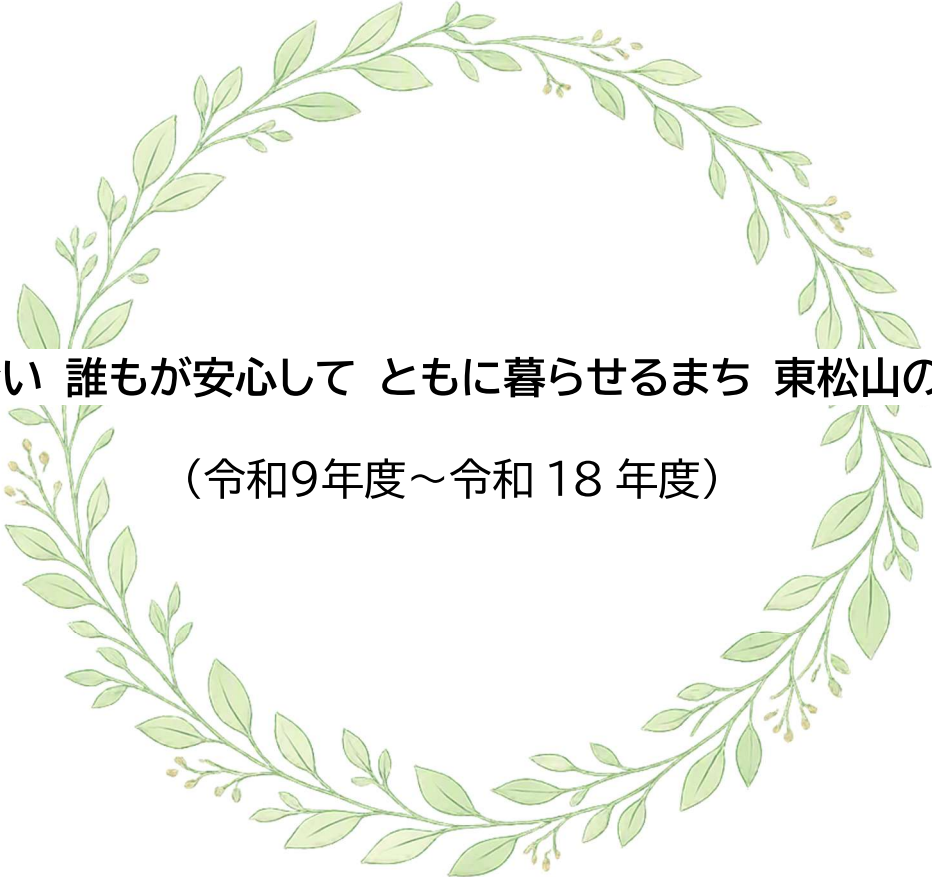


第四次市民福祉プラン (東松山市障害者計画)



認め合い 誰もが安心して とともに暮らせるまち 東松山の推進
(令和9年度～令和 18 年度)

令和9年3月
東松山市

ごあいさつ

令和9年3月

東松山市長

本冊子には、音声コード「Uni-Voice」(ユニボイス)が貼付されています。ユニボイスは、スマートフォン等のデバイスにより読み取り、専用のアプリケーションにより読み上げ機能の使用が可能です。

なお、スマートフォン等の機種によっては読み取りや読み上げに差異が出る場合があります。

目次

第1章 総論	1
1 計画の策定にあたって	3
第2章 東松山市における障害者福祉の現況と課題	11
1 障害のある人の状況	13
2 基礎調査の概要	18
3 現況から見える課題と今後の方向性	21
第3章 計画の基本理念と基本方針	40
1 計画の基本理念	42
2 施策の基本方針と基本施策	44
3 第四次市民福祉プラン施策体系図及び「めざす姿」	48
第4章 障害者・障害児施策の推進	49
基本方針1 互いに認め合い、障害者の権利を守る地域づくり	51
基本方針2 とともに育ちともに学ぶ地域づくり	55
基本方針3 多様な社会参加を支援する地域づくり	59
基本方針4 誰もが安心して安全に暮らせる地域づくり	64
第5章 計画の推進	71
1 計画の推進体制	73
2 東松山市地域自立支援協議会について	73
3 比企地域自立支援協議会について	75
資料編	77
1 東松山市障害者計画等策定委員会委員名簿	79
2 東松山市障害者計画等策定委員会条例	80
3 計画の策定経過	81

※「障害」の表記について

本計画は、国の「障害者基本計画（第5次）」、埼玉県の「第8期障害者支援計画」を参酌した上で策定しています。

国と県は、計画の中で「障害」の表記を用いていることから、本計画もこれに倣い、「障害」の表記を用いています。

第1章

総論

1 計画の策定にあたって

(1) 計画策定の背景・目的

本市では、平成10年に策定した「市民福祉プラン・ひがしまつやま」（東松山市障害者計画）において、“手帳の有無や障害の種別にかかわらず必要なサービスを利用できる仕組みの構築”を目指し、誰もが社会の構成員として、地域社会に参加していく「ソーシャルインクルージョン」の理念をいち早く取り入れました。

この理念は、第二次市民福祉プラン（平成19年策定）、第三次市民福祉プラン（平成29年策定）の基本理念として継承され、障害の有無にかかわらず、すべての市民が個性と能力を発揮し、自分らしく安心して暮らせるよう、住まい・学び・働き方などの分野で施策を進めてきました。

一方、令和元年東日本台風では、本市も甚大な被害を受け、公助に加え、住民同士の支え合いの重要性が再認識されました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、生活様式や社会参加のあり方が大きく変化し、災害時等の避難体制や情報提供などにおける課題が明らかとなりました。

近年、障害者の人数は増加傾向にあり、急激な社会構造の変化、障害者や家族などの高齢化、障害の重度化・重複化などに起因した課題も生じています。

さらに、「医療技術の進歩に伴う医療的ケア児の増加・多様化」のような新たに顕在化した課題や、「障害福祉分野に関わる人材確保・育成」のような、かねてより指摘されている課題にも応えられるよう、取組をより一層推進していくことが求められています。

このような状況の中、平成29年度から令和8年度を計画期間とする第三次市民福祉プランが期間満了を迎えます。近年の障害者福祉制度の動向や社会情勢の変化を踏まえつつ、本市の取組状況や市民のニーズを把握し、更なる障害福祉の推進を目指すため、ここに「第四次市民福祉プラン」を策定します。

(2) 計画の位置付け

①法令根拠

本計画は、障害者基本法第11条第3項に基づく「市町村障害者計画」にあたります。

○障害者基本法<第11条第3項>より抜粋(障害者基本計画等)

市町村は、障害者基本計画及び都道府県障害者計画を基本とするとともに、当該市町村における障害者の状況等を踏まえ、当該市町村における障害者のための施策に関する基本的な計画（以下「市町村障害者計画」という。）を策定しなければならない。

○市における主な関連計画

「第六次東松山市総合計画前期基本計画」(計画期間:令和8年度～令和12年度)

「第三次東松山市地域福祉計画」(計画期間:令和7年度～令和11年度)

「第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」(計画期間:令和9年度～令和11年度)

「東松山市こども計画」(計画期間:令和7年度～令和11年度)

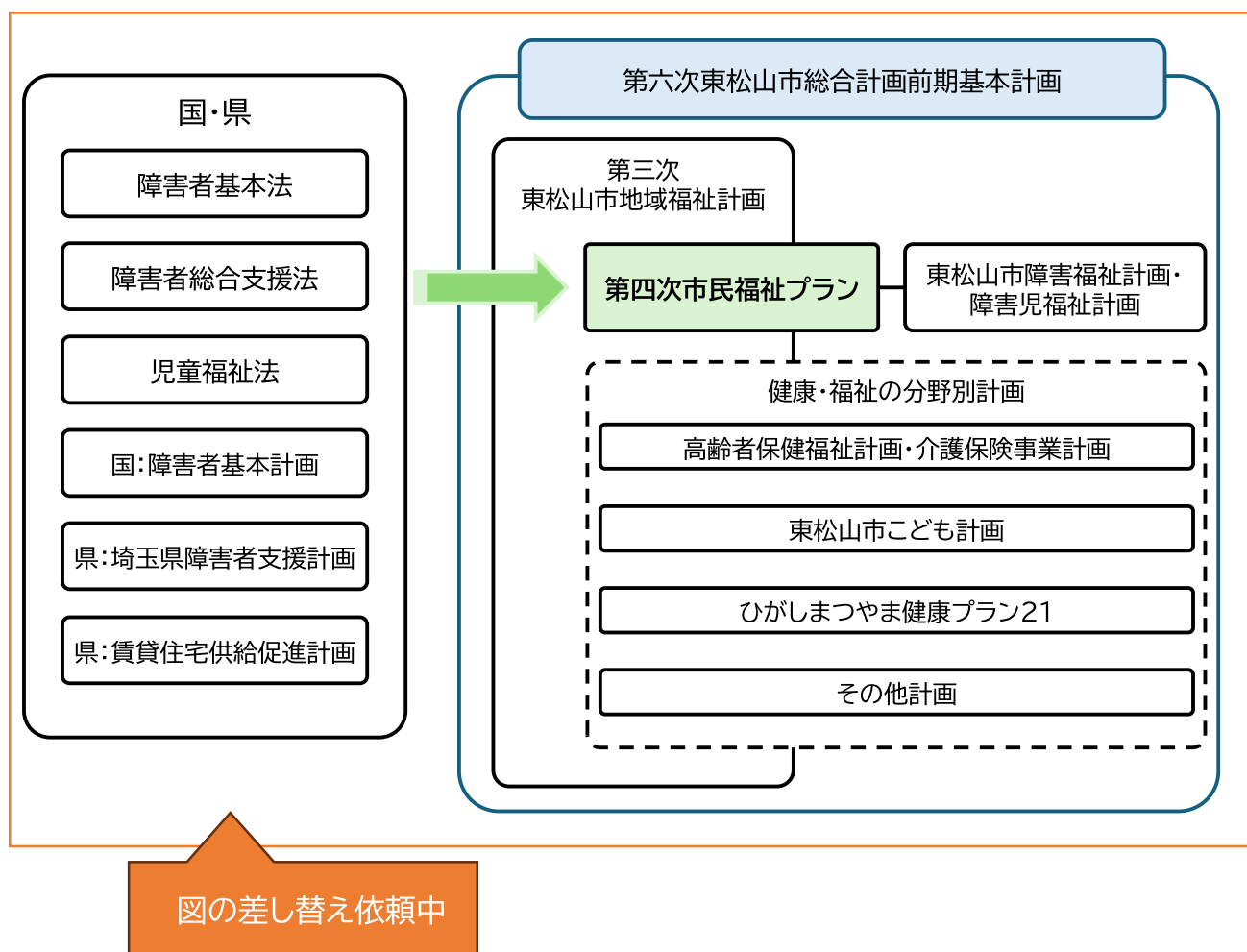
「第3次ひがしまつやま健康プラン21」(計画期間:令和6年度～令和12年度)

「東松山市地域防災計画」(令和6年3月改訂)

②市政における位置付け

本計画は、市政の最上位計画である「第六次東松山市総合計画前期基本計画（令和8年度～令和12年度）」の健康福祉分野における関連計画に位置付けられます。

策定にあたっては、福祉分野における上位計画の「第三次東松山市地域福祉計画」や、その他の保健・福祉の分野別計画、国が策定した「障害者基本計画」、埼玉県が策定した「埼玉県障害者支援計画」等との整合を図ります。



③持続可能な地域福祉の充実～SDGsの理念～

第六次東松山市総合計画前期基本計画では、平成27年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」のまちづくりの視点を取り入れるとともに、「観光振興」「産業振興」「子育て支援」「防災・減災対策の推進」「地域福祉の充実」を本市が重点的に取り組むべき課題として位置付けています。

この計画においても、“誰一人として取り残さない”というSDGsの理念を意識しながら、地域福祉の充実を目指しています。

【参考】持続可能な開発目標(SDGs)の概要



出典：国際連合広報センター

④計画の期間

「第四次市民福祉プラン」の計画期間は、令和9年度から令和18年度までの10年間とし、5年目に当たる令和13年度に見直しを行い、令和14年度から令和18年度までの後期計画を策定します。

									(年度)
令和9	令和10	令和11	令和12	令和13	令和14	令和15	令和16	令和17	令和18
第四次市民福祉プラン									
					第四次市民福祉プラン(後期計画)				
第8期障害福祉計画			第9期障害福祉計画			第10期障害福祉計画			
第4期障害児福祉計画			第5期障害児福祉計画			第6期障害児福祉計画			

⑤計画の策定体制

1 策定員会の設置

2 市民等の意見の反映

追記依頼中

(3) 国・県の動向および市における例規の整備

○障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(総合支援法)及び児童福祉法の一部を改正する法律

平成 28 年 6 月に公布され、平成 30 年 4 月の施行により、障害のある人が自ら望む地域生活を営むことができるよう、「生活」と「就労」に対する支援の一層の充実、高齢の障害のある人の介護保険サービスの円滑な利用促進や、障害のある子どものニーズの多様化にきめ細かく対応するための見直し等が行われました。また、障害児支援の提供体制を計画的に確保するため、市町村に障害児福祉計画の策定が義務付けられました。

○障害者による文化芸術活動の推進に関する法律

障害のある人による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図るため、平成 30 年 6 月に公布・施行されました。

○視覚障害者等の読書環境の整備の促進に関する法律(読書バリアフリー法)

障害の有無に関わらず、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に向けて、視覚障害者等の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進するため、令和元年 6 月に公布・施行されました。

○障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)の一部を改正する法律

官民間問わず、障害者が働きやすい環境を作り、また全ての労働者にとって働きやすい場を作ることを目指すことが重要であるという観点から、令和元年 6 月に公布されました。令和 6 年 4 月からは法定雇用率引上げ(2.7%)など、段階的に改正が施行されています。

○埼玉県ケアラー¹支援条例

ケアラーの支援に関し、基本理念を定め、県の責務並びに県民、事業者及び関係機関の役割を明らかにするとともに、ケアラーの支援に関する施策の基本となる事項を定めることにより、ケアラーの支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって全てのケアラーが健康で文化的な生活を営むことができる社会を実現するため、令和 2 年 3 月に公布・施行されました。

○聴覚障害者等による電話の利用の円滑化に関する法律(電話リレー法)

¹ケアラーとは、高齢、身体上又は精神上の障害又は疾病等により援助を必要とする親族、友人その他の身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する方のことです。そのうち 18 歳未満の方をヤングケアラーといいます。

聴覚障害者等による電話の利用の円滑化のため、公共インフラとしての電話リレーサービスの適正かつ確実な提供を確保するなどの必要があることから、令和２年１２月に施行されました。

○第7期埼玉県障害者支援計画

障害者基本法第１１条第２項、障害者総合支援法第８９条第１項及び児童福祉法第３３条の２第１項に規定する計画であり、県の障害者・障害児施策推進の基本的方向や、達成すべき障害者福祉サービス、障害児福祉サービスの目標などを明らかにし、障害者・障害児施策の総合的な推進を図るため、令和３年３月に策定されました。

○医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律

医療的ケア児を子育てする家族の負担を軽減し、医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職を防止し、もって安心して子どもを生み、育てることができる社会の実現に寄与することを目的に、令和３年６月に公布され、同年９月に施行されました。

○障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律案（障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法案）

障害のある人が社会のあらゆる活動に参加するためには、情報取得や意思疎通が重要であることから、その支援に関する基本理念や国・自治体等の責務を定め、施策を総合的に推進することで、障害の有無に関わらず互いに尊重し合える共生社会の実現を目指すため、令和４年５月に公布・施行されました。

○障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、平成２５年６月に公布され、平成２８年４月に施行されました。また、令和３年の法改正により、令和６年４月から、民間事業者による合理的配慮が義務化されました。

○高次脳機能障害者支援法

高次脳機能障害は、病気や事故による脳の損傷によって生じる記憶障害や注意障害などの認知機能障害で、全国に約２３万人いると推計されています。外見から分かりにくく理解も十分でないため、本人や家族が適切な支援を受けられず、生活上の困難を抱えている状況があります。こうした課題を踏まえ、理解促進と切れ目のない支援体制の整備を目的として、「高次脳機能障害者支援法」が令和７年１２月に公布され、令和８年４月から施行されました。

○東松山市手話言語条例

手話が言語であるとの認識に基づき、手話に関する施策を推進し、また、手話を普及し、手話を通じて互いに認め合い、支え合う共生社会の実現を目指していくことを目的として、令和元年６月に公布・施行されました。

○手話に関する施策の推進に関する法律(手話施策推進法)

内容の追加依頼中

年表追加依頼中

第2章

東松山市における障害者福祉の現況と課題

1 障害のある人の状況

(1)障害者手帳所持者の推移

本市における障害者手帳所持者は、令和7年度末時点で4,554人となっており、全体としてやや増加傾向にあります。内訳では療育手帳や精神障害者保健福祉手帳所持者数が増加している一方、身体障害者手帳所持者数は横ばいの状況となっています。

また、自立支援医療（精神通院）²の利用者が2年間で195人増加しています。

障害者手帳所持者、自立支援医療（精神通院）受給者及び指定難病³等医療受給者の合計が人口に占める割合は約8%となっており、そのうち約35%が身体障害者手帳所持者となっています。

① 障害のある人の状況

(人・世帯)

現在	手帳取得者数				自立支援医療 (精神通院)	指定 難病等 医療	合計	(参考) 人口	(参考) 世帯数
	身体 障害者 手帳	療育 手帳 (知的)	精神障 害者保 健福祉 手帳	小計					
R5 年度末	2,563	813	992	4,368	1,635	878	6,881	90,862	43,080
R6 年度末	2,561	829	1,077	4,467	1,715	895	7,077	91,065	43,803
R7 年度末	2,554	863	1,137	4,554	1,830	916	7,300	90,942	44,240

資料：東松山市福祉事務所

② 総人口に占める障がいのある人の割合

(%)

現在	身体障害 者手帳	療育手帳 (知的)	精神障害 者保健福 祉手帳	自立支援 医療(精神 通院)	指定 難病等 医療	計	サービス 支給決定者
R5 年度末	2.82	0.89	1.09	1.80	0.96	7.57	0.99
R6 年度末	2.81	0.91	1.18	1.88	0.98	7.77	1.06
R7 年度末	2.81	0.95	1.25	2.01	1.01	8.03	1.14

資料：東松山市福祉事務所

² 障害者総合支援法に基づき、手帳の有無にかかわらず、精神疾患のための通院による精神医療を継続して受ける人を対象に、医療費の自己負担を軽減するものです。

³ 難病の患者に対する医療等に関する法律に基づき医療費助成の対象となる疾病で、令和8年4月時点では348の疾病が指定されています。

(2)身体障害者手帳所持者数の推移

身体障害者手帳所持者数の内訳をみると、部位別では内部障害の人が増加傾向にあります。また、身体障害者手帳所持者の中での高齢者の割合は約7割となっています。

内部障害の内訳では、「心臓」「じん臓」「ぼうこう又は直腸」が大部分を占めています。

③ 級別身体障害者手帳所持者数 (人)

現在	総数	内訳						18歳未満	18歳以上
		1級	2級	3級	4級	5級	6級		
R5年度末	2,563	903	382	383	598	126	171	43	2,520
R6年度末	2,561	879	388	370	616	125	183	40	2,521
R7年度末	2,554	883	371	359	625	121	195	42	2,512

資料:東松山市福祉事務所

④ 部位別身体障害者手帳所持者数 (人)

現在	総数	視覚	聴覚・平衡	音声・言語・そしゃく	肢体不自由	内部障害	65歳以上	高齢者割合
R5年度末	2,563	155	245	48	1,200	915	1,810	71%
R6年度末	2,561	164	241	49	1,174	933	1,803	70%
R7年度末	2,554	160	241	44	1,144	965	1,810	71%

資料:東松山市福祉事務所

⑤ 内部障害別身体障害者手帳所持者数 (人)

現在	心臓	じん臓	呼吸器	ぼうこう又は直腸	小腸	免疫	肝臓	計
R5年度末	438	288	22	143	6	13	5	915
R6年度末	467	275	21	144	5	14	7	933
R7年度末	478	285	21	153	5	16	7	965

資料:東松山市福祉事務所

(3)療育手帳所持者数の推移

療育手帳所持者数については、増加傾向が続いています。

⑥ 療育手帳所持者数 (人)

現在	総数	内訳				18 歳 未満	18 歳 以上
		㊤	A	B	C		
R5 年度末	813	165	179	250	219	163	650
R6 年度末	829	161	180	261	227	161	668
R7 年度末	863	164	179	278	242	173	690

資料:東松山市福祉事務所

(4)精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

精神障害者保健福祉手帳所持者数については、大幅な増加傾向が続いています。

⑦ 等級別精神障害者保健福祉手帳所持者数 (人)

現在	総数	内訳			18 歳 未満	18 歳 以上
		1 級	2 級	3 級		
R5 年度末	992	93	656	243	18	974
R6 年度末	1,077	93	714	270	24	1,053
R7 年度末	1,137	89	762	286	25	1,112

資料:東松山市福祉事務所

(5) 自立支援医療(精神通院)利用者数の推移

自立支援医療（精神通院）利用者数については、大幅な増加傾向にあり、特に気分障害⁴が大幅に増加しています。

⑧ 自立支援医療(精神通院)利用者数 (人)

	総数	内訳					18歳未満	18歳以上
		統合失調症 ⁵	気分障害	神経症 ⁶	てんかん	その他 ⁷		
R5年度末	1,635	430	650	132	94	329	23	1,612
R6年度末	1,715	428	712	140	94	341	18	1,697
R7年度末	1,830	434	779	159	90	368	20	1,810

資料：東松山市福祉事務所

(6) 指定難病等医療給付受給者の推移

指定難病による受給者数については、増加傾向が続いています。

⑨ 特定疾患(指定難病等)医療給付受給者数 (人)

現在	総数	内訳	
		特定疾患(指定難病等)	小児慢性特定疾病
R5年度末	878	763	115
R6年度末	895	773	122
R7年度末	916	802	114

資料：東松山保健所

⁴ 気分と感情の変動により特徴づけられる精神疾患で、うつ病や双極性障害などがあります。

⁵ 幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患で、「感覚・思考・行動が病気のために歪んでいる」ことを自分で振り返って考えることが難しくなりやすいという特徴があります。

⁶ 心因（心理・社会的環境要因）による心身の機能障害で不安神経症、強迫神経症、心気神経症、抑うつ神経症などがあります。

⁷ 先天異常、頭部外傷、変性疾患、新生物、中毒、中枢神経の感染症、膠原病や内分泌疾患を含む全身疾患による中枢神経障害等を原因として生じる精神疾患である「器質性精神障害」や自閉症、アスペルガー症候群などの広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの脳機能の障害である「発達障害」などがあります。

(7)サービス支給決定者数の推移

サービス支給決定者数については、全体として増加傾向が続いています。

⑩ サービス支給決定者数 (人)

現在	児童	身体障害	知的障害	精神障害	特殊の疾病	計
R5 年度末	214	128	322	237	0	901
R6 年度末	226	135	342	262	1	966
R7 年度末	251	141	351	290	1	1,034

資料:東松山市福祉事務所

2 基礎調査の概要

(1) アンケート調査による障害のある人の実態調査

【調査の目的】

この調査は、令和8年度に策定する「第四次市民福祉プラン（東松山市障害者計画）」、「第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」の策定にあたり、障害のある人の日常生活の状況及び障害福祉サービス等の利用状況・利用意向等を把握することにより、今後の施策展開を図るための基礎資料とすることを目的としています。

【調査の対象】

調査区分とそれぞれの対象者については、以下のとおりです。

調 査 名	調 査 対 象	調査対象者	有効回答数
当事者アンケート	市内在住の 障害者手帳所持者 1,000 人 を無作為抽出	1,000 人	586 人 (58.6%)
市民アンケート	市内在住の 250 人を 無作為抽出	250 人	141 人 (56.4%)
中学生アンケート	市内中学校2年生	731人	623 人 (85.2%)

【調査の方法】

配布:郵送

回答:郵送又はインターネット

【調査の実施時期】

当事者・市民アンケート 令和7年 10 月

中学生アンケート 令和7年7月～10月

(2) アンケート調査及びヒアリング調査による課題・ニーズの把握

【調査の目的】

東松山市第四次市民福祉プランの策定にあたり、当事者や関係団体・事業者などに、現状の問題点、課題、今後の意向、市の障害者施策に対する意見等を伺い、施策検討に資する基礎資料を得ることを目的としています。

【調査の対象と実施状況】

対象区分		対象数	アンケート 回答数	うちヒアリング 実施数
当事者	当事者団体	8	4	2
	特別支援学校PTA	2	2	—
	障害者本人	7	—	6※1
関係団体 ・事業者	障害福祉サービス事業者	70	44	5
	雇用事業者	39	20	—
	関係団体※2	11	10	—
	特別支援学校	2	2	—

※1 うち1件は同世帯のきょうだい2人に実施。

※2 ここでは、当事者団体以外の福祉関係団体、主要な団体・公共機関をいう。

【実施方法】

書面によるアンケートを実施し、回答があったもののうち、対面式調査への協力が得られた団体等の一部と、障害者本人に対し、ヒアリング調査を実施しました。

【実施時期】

アンケート調査：令和7年7月～令和7年8月

ヒアリング調査：令和7年9月～令和7年10月

【調査項目】

対象区分	主な調査項目
当事者団体	団体概要 障害福祉サービスについて 医療、教育・就労、災害対策について 市の障害者施策について
特別支援学校PTA	学校について 障害福祉サービスについて 市の障害者施策について
障害者本人	障害福祉サービス・施設について 地域の理解や差別について 仕事・学校・医療・災害対策について
障害福祉サービス事業者	事業概要 障害福祉サービスについて 利用者等の高齢化に伴う問題について 事業運営上の問題について 市の障害者施策について
雇用事業者	事業概要・障害者雇用状況 企業側の工夫や課題について 障害者が企業で働くために身につけておくべき知識やスキルについて 今後の障害者雇用について 障害者施策について
関係団体	事業概要 障害福祉サービスについて 障害のある人となない人が共に暮らすために必要なことについて 障害者施策について団体として感じる課題・満足度について
特別支援学校	学校について 課題や意見について 障害福祉サービスについて 障害者施策について

3 現況から見える課題と今後の方向性

東松山市の統計データやアンケート調査・ヒアリング結果から、本市の障害者福祉に関して、以下のとおり課題が挙げられます。

課題1 当事者を含めた啓発活動による障害理解の促進

アンケート結果より

当事者向け調査において、障害者差別解消法の認知度は34.0%にとどまっています。また、当事者向け・市民向け調査において「合理的配慮の提供」の義務化については「知らない」が約7割と高い割合を占めています。

さらに、障害のある人に対する市民の理解については、「理解されている」と感じている人は24.4%にとどまっており、差別や嫌な思いをした経験は54.0%と半数を超える一方で、そのうち約半数が相談していない状況がみられます。

当事者、関係団体向けヒアリング・アンケート調査より

外見から分かりにくい障害に対する誤解や配慮不足、日常生活の中での無意識の偏見の存在が指摘されているほか、障害理解には幼少期から障害の有無に関わらずともに育つ機会が重要である一方、その機会が限られていることが課題として挙げられています。

課題

これらの結果から、制度としての整備は進んでいるものの、その内容や趣旨が地域社会に十分浸透しておらず、結果として障害のある人が日常生活の中で不利益や生きづらさを感じる場面が依然として多いことがうかがえます。また、差別や不適切な対応を受けた際に当事者が相談や発信をしていない実態があり、権利擁護の観点からも課題が残されています。

方向性

今後は、障害に対する正しい理解の普及啓発を一層推進するとともに、障害理解の促進のためにも幼少期からのインクルーシブな環境づくりを進める必要があると考えられます。

また、安心して相談できる環境整備や相談先の情報提供、合理的配慮の具体的な内容等について、当事者を含め、地域や事業者にわかりやすく伝える取組を進めるなど、理解の促進と当事者への情報提供を両輪で進めていくことが求められます。

アンケート結果抜粋

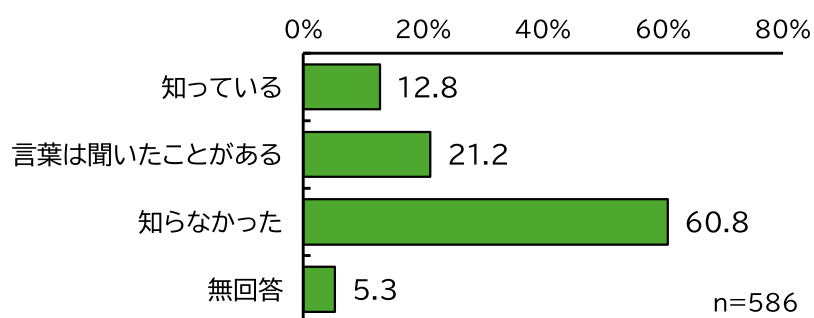
【当事者アンケート】

あなたは、「障害者差別解消法」を知っていますか。(〇は1つ)

※障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

障害者差別解消法を知っている割合（「知っている」と「言葉は聞いたことがある」の合計）は、34.0%となっています。

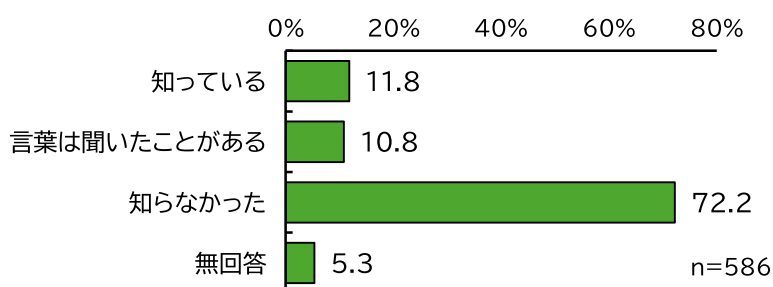
一方、「知らなかった」は60.8%となっています。



あなたは、2024 年 4 月から民間事業者にも「合理的配慮の提供」が義務化されたことを知っていますか。(〇は1つ)

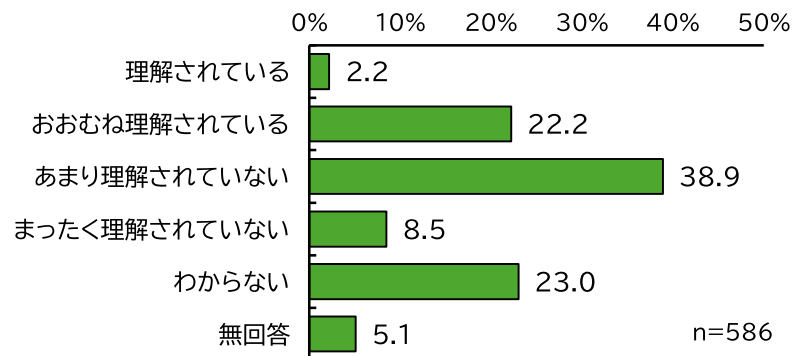
※社会の中にあるバリアを取り除くために、障害のある人からなんらかの支援を必要としているとの意思が伝えられた時に、負担が重すぎない範囲で対応すること

「合理的配慮の提供」が義務化されたことについては、「知っている」が 11.8%、「言葉は聞いたことがある」が 10.8%となっています。一方、「知らなかった」が 72.2%と最も多くなっています。



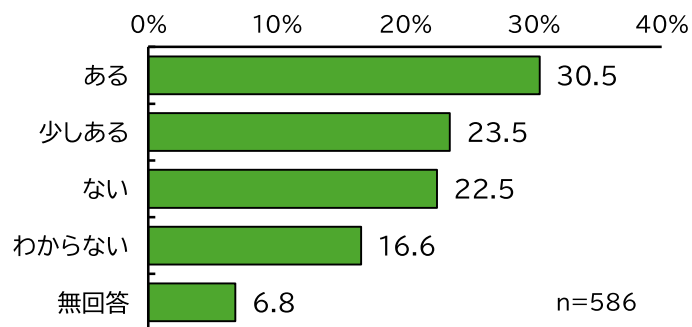
障害のある人に対する市民の理解度はどの程度だと考えますか。(〇は1つ)

障害のある人に対する市民の理解度について、「理解されている」と「おおむね理解されている」の合計は、24.4%となっています。



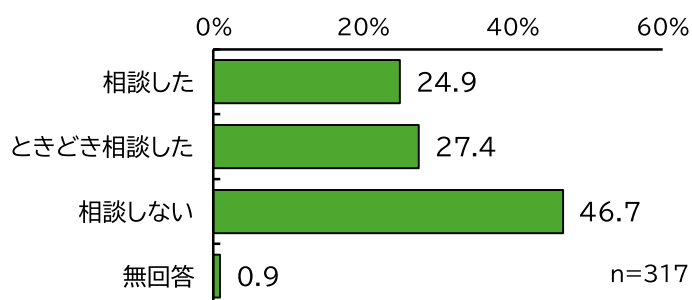
障害があることで差別や嫌な思いをしたことがありますか。(〇は1つ)

障害があることで、差別や嫌な思いをした経験について、『ある』割合(「ある」と「少しある」の合計)は、54.0%となっています。



そのことを誰かに相談しましたか。(〇は1つ)

相談の有無では、「相談した」が24.9%、「ときどき相談した」が27.4%、「相談しない」が46.7%となっています。



課題2 こども支援の充実

アンケート結果より

通園・通学における課題として「周囲のこどもや保護者の理解」が24.5%、「通い先と自宅との移動」が22.6%と上位に挙げられています。

また、放課後や休日の過ごし方で困っていることとしては、「様々な体験をしたい（させたい）」が、支援体制がない」が34.9%と、体験機会の不足も顕在化しています。

保護者の悩みとしては、「仕事との両立が難しい」が49.1%と最も多く、「本人の意思を汲み取ることが難しい」「本人をどう育てたらよいか、本人の状態にどう対応したらよいかわからない」といった不安も多く挙げられています。

当事者、関係団体向けヒアリング・アンケート調査より

進路選択における選択肢の不足、特に重度障害児における卒業後の受け皿の少なさ、また、教員の体制や専門性の確保、施設環境の整備に関する課題が指摘されています。

課題

これらの結果から、教育・療育・福祉の連携が十分とは言えず、こどもの成長段階に応じた切れ目のない支援体制の構築が求められています。また、放課後や休日の過ごし方に関する悩みや、地域における居場所や多様な体験機会の不足がうかがえます。

方向性

今後は、こどもの特性に応じた適切な支援の提供に加え、保護者の負担軽減や就労継続を支える支援の充実が必要です。また、教育と福祉の連携強化、インクルーシブ教育の推進、進路選択の幅の拡充などを通じて、こどもと家庭を一体的に支える体制づくりが重要となります。

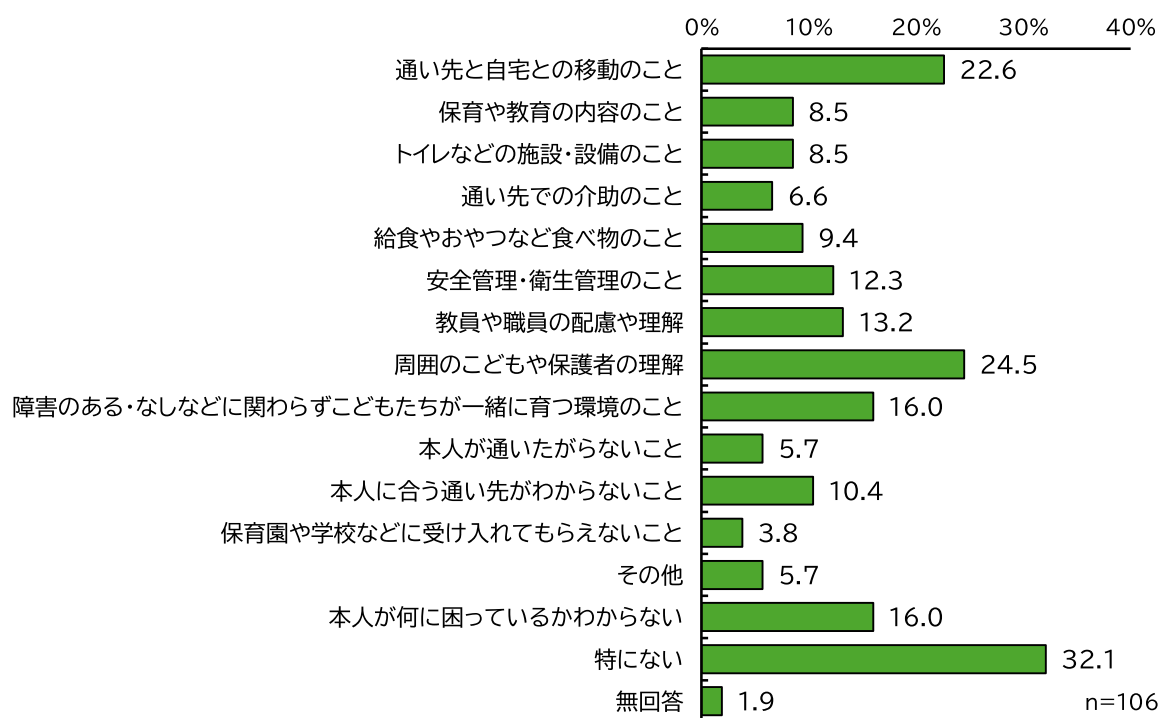
アンケート結果抜粋

【当事者アンケート】

お子さんの生活で困っていることについて、①～③にお答えください。

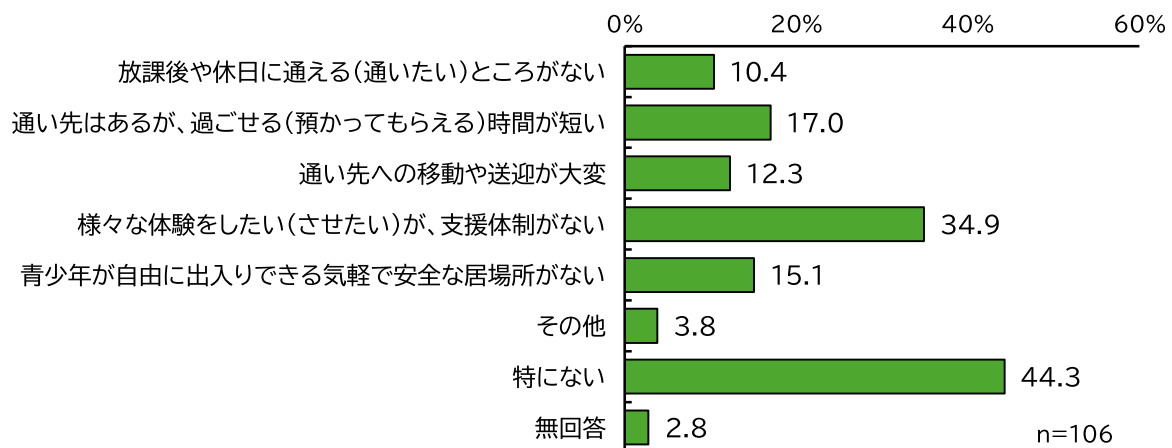
通園・通学・通所について困っていること(あてはまるすべてに○)

通園・通学・通所について困っていることは、「周囲の子どもや保護者の理解」が24.5%と最も多く、次いで「通い先と自宅との移動のこと」が22.6%、「障害のある・なしなどに関わらず子どもたちが一緒に育つ環境のこと」「本人が何に困っているかわからない」がともに16.0%となっています。また、「特にない」が32.1%となっています。



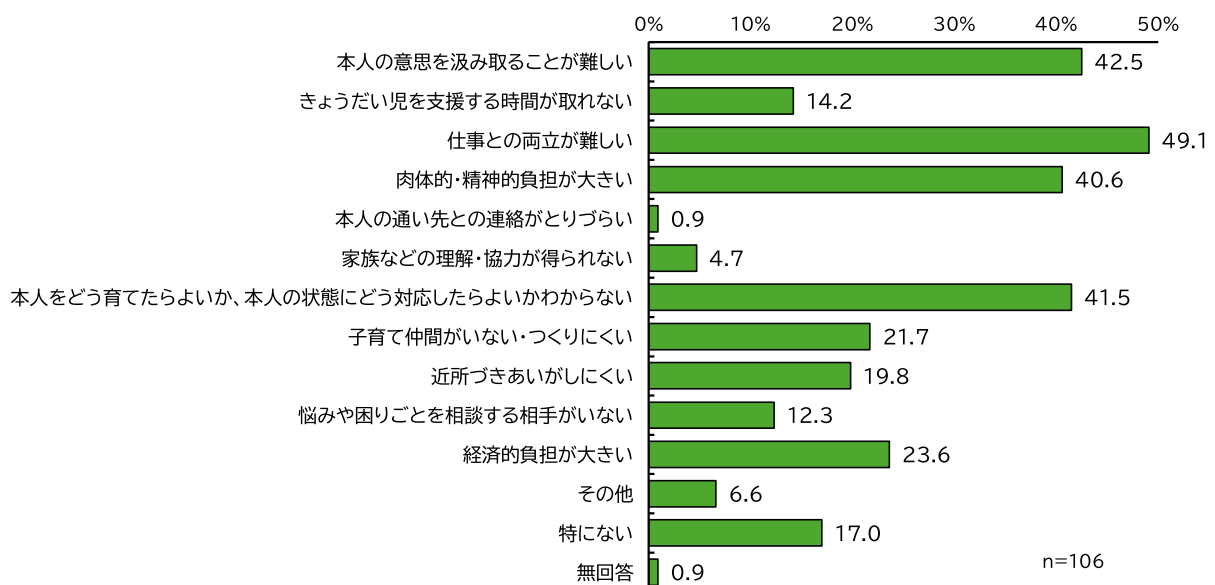
放課後や休日の過ごし方で困っていること(あてはまるすべてに○)

通園・通学・通所について困っていることは、「様々な体験をしたい(させたい)が、支援体制がない」が34.9%と最も高く、次いで「通い先はあるが、過ごせる(預かってもらえる)時間が短い」が17.0%、「青少年が自由に出入りできる気軽に安全な居場所がない」が15.1%となっています。



【保護者の方について】子育ての悩みや困りごと(あてはまるすべてに○)

保護者の方の子育ての悩みや困りごとについては、「仕事との両立が難しい」が49.1%と最も多く、次いで「本人の意思を汲み取ることが難しい」が42.5%、「本人をどう育てたらよいか、本人の状態にどう対応したらよいかわからない」が41.5%となっています。



課題3 就労・社会参加の促進

アンケート結果より

18歳以上の当事者の日中の過ごし方として「収入のある仕事」が32.0%である一方、「静養している（特に何もしていない）」が26.2%と高い割合を占めており、活動状況にばらつきがみられます。また、将来の就労については「わからない・未定」が20.2%、「仕事はしない」が18.9%となっており、就労に対する見通しが立てにくい状況がうかがえます。

就労にあたって必要なこととしては、「企業、上司、同僚の理解」が52.0%、「仕事の内容や量の工夫」が49.0%と高く、職場における受入環境の整備が重要であることが示されています。

また、今後、参加したい・続けたい地域活動については「特にない」が48.6%と半数近くを占めており、社会参加が十分に進んでいない状況もみられます。

さらに、生活における主要な悩みとして、仕事（就労）のことや給与水準に関することが挙げられています。

当事者、関係団体向けヒアリング・アンケート調査より

工賃のみでは生活が成り立ちにくい実態や、企業側の受入体制の課題などが指摘されています。

課題

これらの結果から、就労機会の確保だけでなく、就労の継続や所得の安定に向けた支援が求められています。また、就労に至っていない人に対しても、日中活動の場や社会参加の機会を確保することが重要です。

方向性

今後は、企業へ向けて雇用促進に係る働きかけとともに就労支援機関との更なる連携強化を図り、多様な働き方や就労支援の充実を進める必要があります。

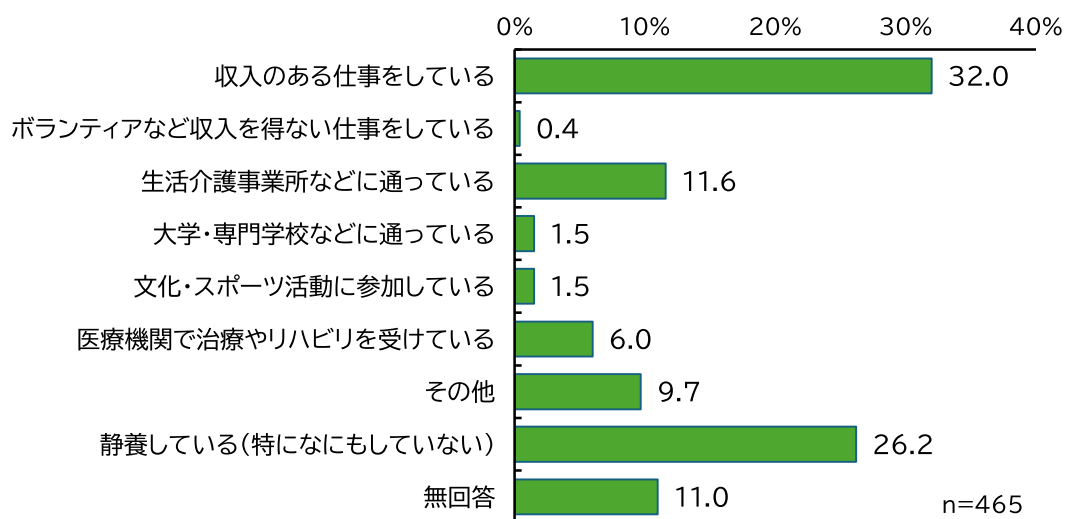
また、地域活動や交流の場の充実を通じて、社会参加の機会を広げていくことが求められます。

アンケート結果抜粋

【当事者アンケート】

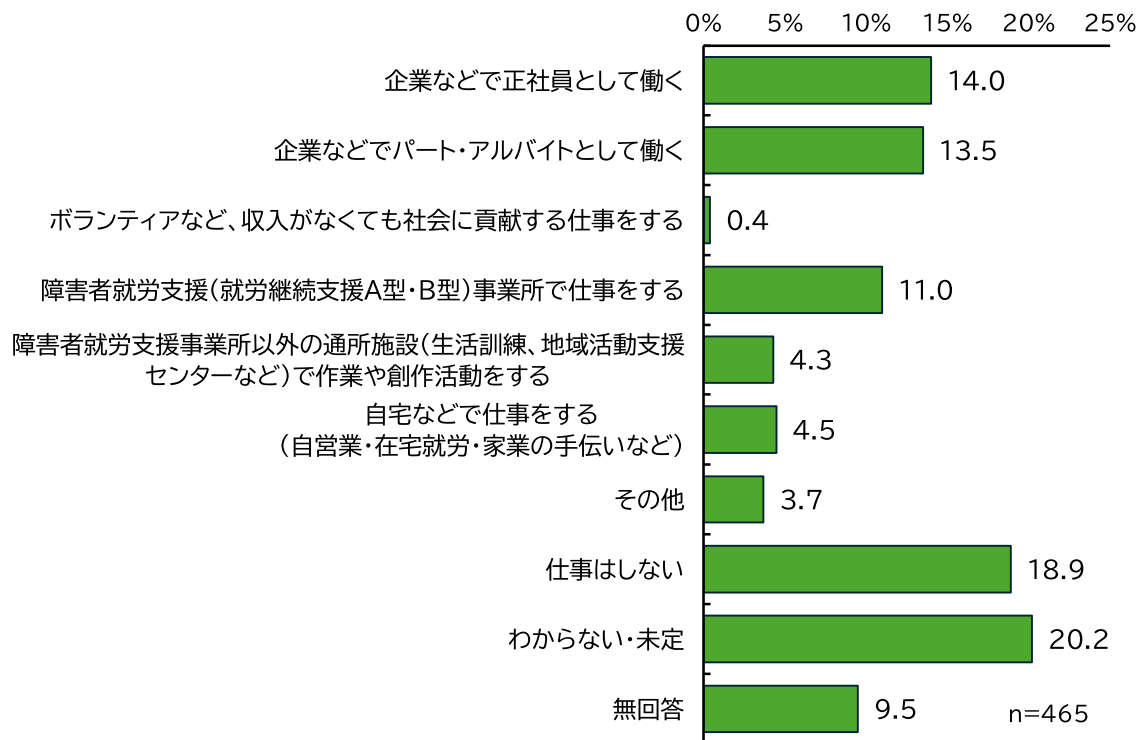
あなたは、平日日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つ)

平日の昼間の過ごし方は、「収入のある仕事をしている」が32.0%と最も多く、次いで「静養している（特になにもしていない）」が26.2%となっています。



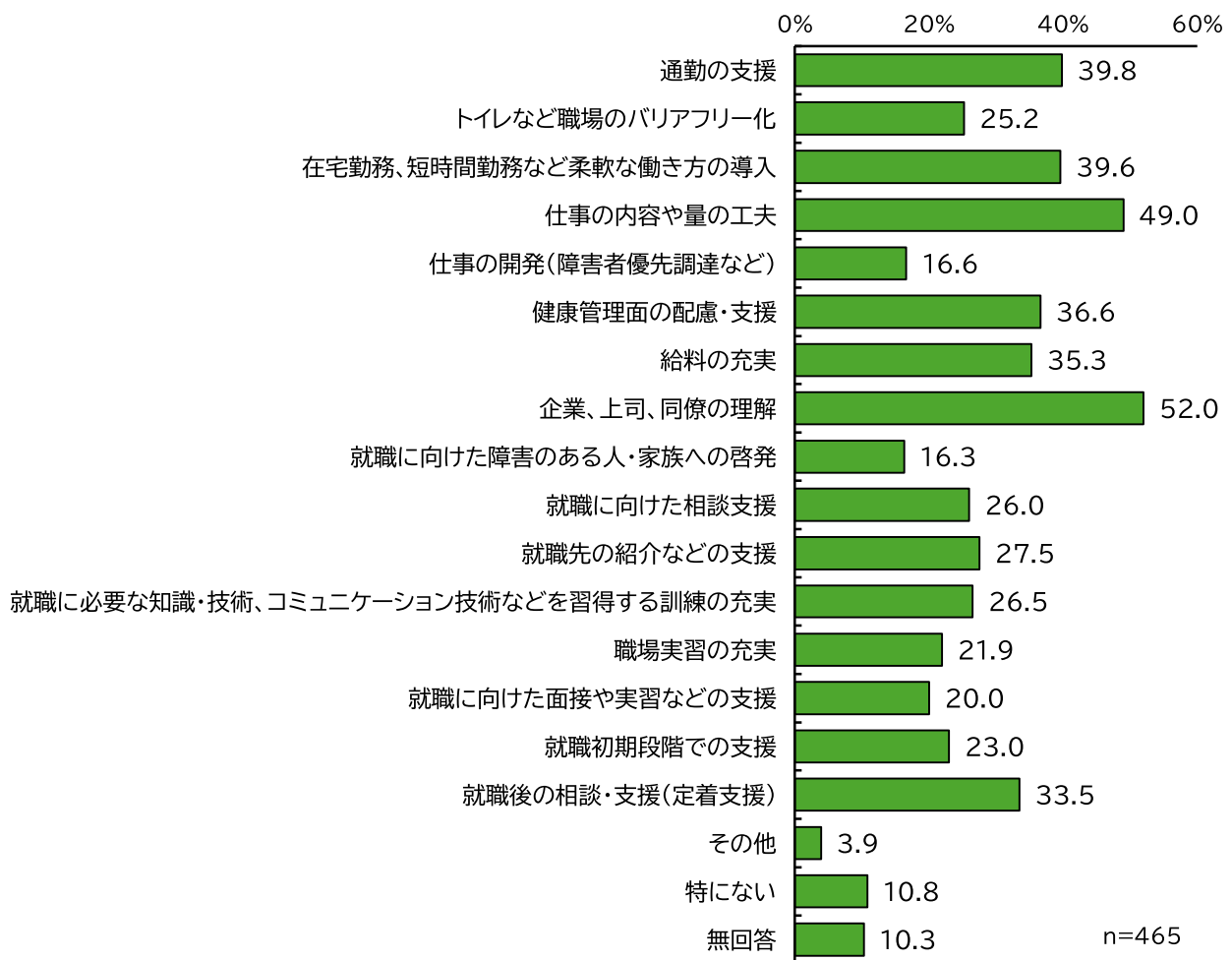
あなたの3年後までの働き方の予定や希望をお答えください。(〇は1つ)

3年後までの就労予定や就労希望については、「企業などで、正社員・正職員として働く」が14.0%と最も多く、次いで「企業などでパート・アルバイトとして働く」が13.5%となっています。また、「仕事はしない」が18.9%、「わからない・未定」が20.2%となっています。



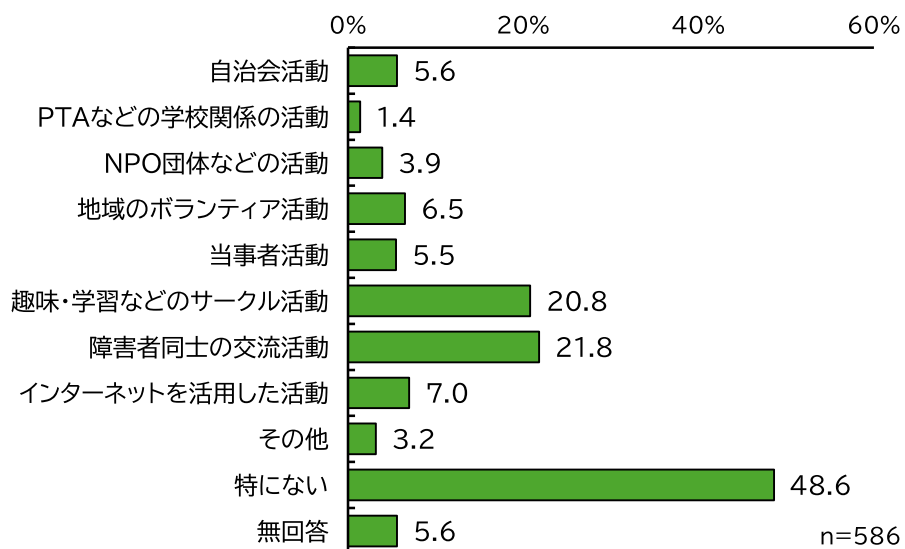
障害のある人が企業などで働くためには何が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

障害のある人が働くために必要なことは、「企業、上司、同僚の理解」が52.0%と最も多く、次いで「仕事の内容や量の工夫」が49.0%、「通勤の支援」が39.8%となっています。



地域や社会での活動で、あなたが今後、参加したい・続けたい活動は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

地域活動として今後参加したい、続けたい活動については、「特にない」が48.6%と最も多くなっていますが、関心があるものでは、「障害者同士の交流活動」(21.8%)、「趣味・学習などのサークル活動」(20.8%)などが挙げられています。



課題4 地域生活支援体制の充実

アンケート結果より

当事者の暮らしの場については、「自宅・実家」が74.9%と大多数を占め、生活の手助けは「家族など」が66.7%となっています。また、主な介護者のうち36.6%が65歳以上となっており、介護者の高齢化が進んでいます。

将来の暮らしについては、「変えたくない」が57.0%と多い一方、「変えたい」「できれば変えたい」と回答した人については、「実現できるかわからない」が48.3%となっており、将来の生活に対する不安や見通しの立てにくさがうかがえます。

医療面では、「通院時の移動や付き添いの確保」が20.0%、「医療費の負担」が14.3%となっています。生活相談の相手については「家族」が70.1%で、福祉の情報については「得ていない」「わからない」を合わせると約3割となります。

サービス利用については、利用したけれど利用できない・利用しにくいサービスが「ある」とする回答が8.2%あり、その理由として「曜日や時間が合わない」「事業所が近くにない」など、サービスの利用環境に関する課題が挙げられています。

当事者、関係団体向けヒアリング・アンケート調査より

重度障害や医療的ケアへの対応不足、サービスの地域偏在、災害時の支援体制の不十分さ、制度や手続きの分かりにくさなど多様な課題が指摘されています。

課題

これらの結果から、現在の生活は家族によって支えられている側面が大きく、将来的な支援体制への不安が顕在化しています。また、サービスそのものの不足だけでなく、情報提供や利用しやすさといった面にも課題があることが明らかとなっています。

方向性

今後は、家族に過度な負担をかけず、本人の安定した生活が継続できるよう将来を見据えた相談支援体制の強化、情報提供の充実、サービス基盤の整備を一体的に進める必要があります。

また、医療・福祉・就労・生活支援を横断した包括的な支援体制の構築や、災害時を含めた安心して暮らせる地域づくりを推進していくことが求められます。

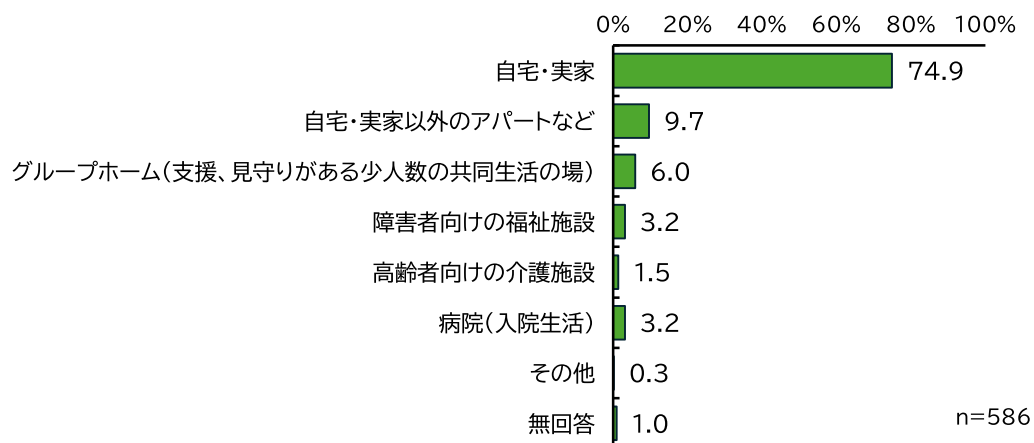
アンケート結果抜粋

【当事者アンケート】

あなたの暮らし方についてうかがいます。①～③にお答えください。

現在の暮らしの場(○は1つ)

現在の暮らしの場は、「自宅・実家」が74.9%と最も多くなっています。

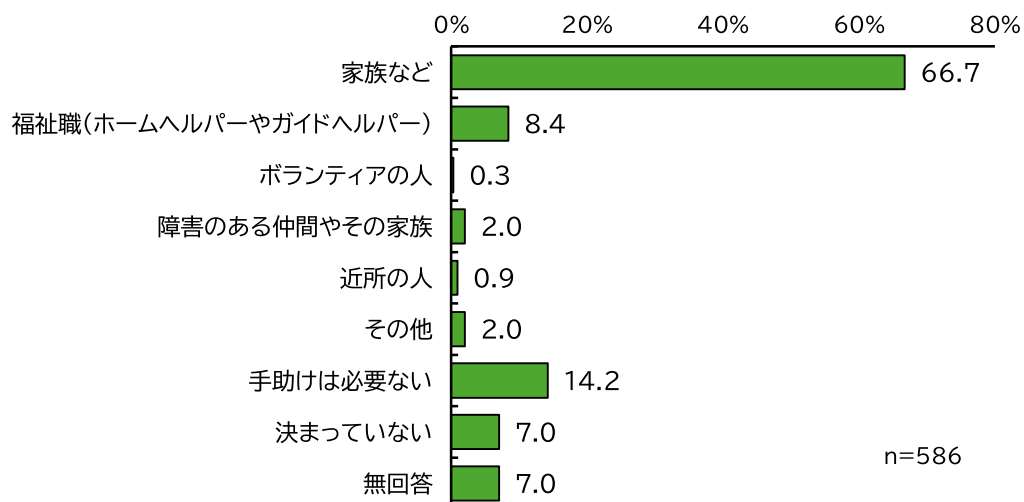


自宅での生活を手助けしてくれる主な人(○は2つまで)

※入居・入所・入院中の方は、自宅に帰った時のことにお答えください。

自宅での生活を手助けしてくれる人は、「家族など」が66.7%と最も多く、次いで「福祉職（ホームヘルパーやガイドヘルパー）」が8.4%となっています。

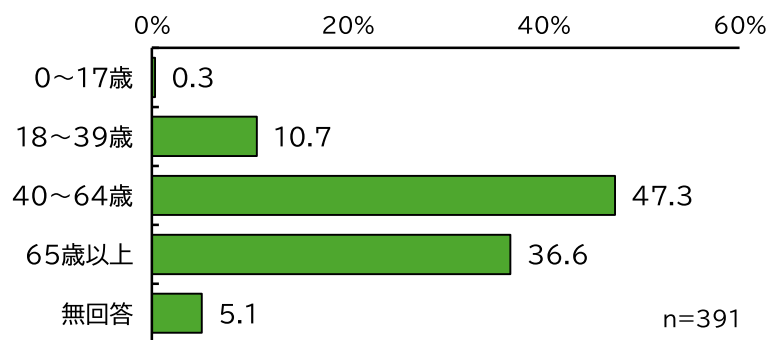
一方、「手助けは必要ない」が14.2%となっています。



【自宅での生活を手助けしてくれる主な人について、「家族」を選んだ方】(○は1つ)

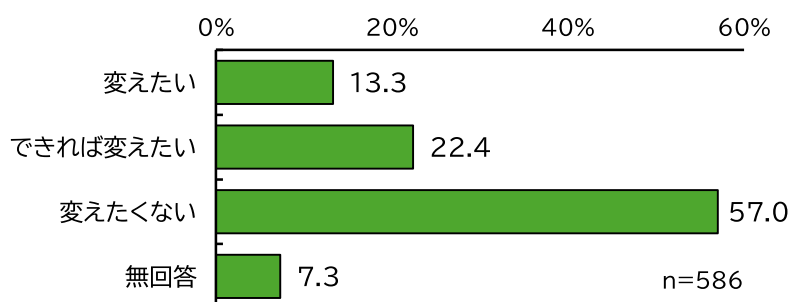
※家族などで複数の方が手助けをしてくれる場合は最も中心となる方についてお答えください

自宅での生活を手助けしてくれる家族の年齢は、「40歳～64歳」が47.3%と最も多く、次いで「65歳以上」が36.6%となっています。



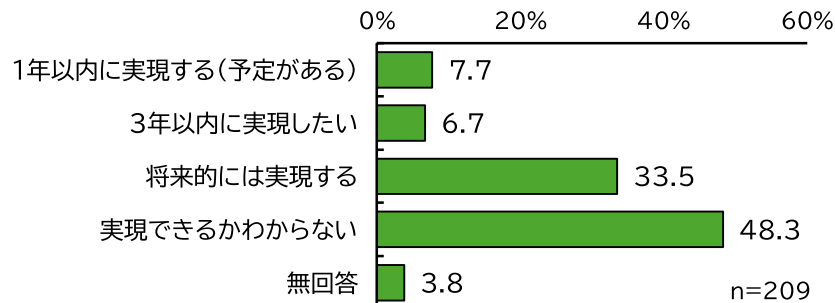
あなたは、将来、暮らし方を変えたいですか。(○は1つ)

将来の暮らし方については、「変えたい」が13.3%、「できれば変えたい」が22.4%、「変えたくない」が57.0%となっています。



暮らし方を実現する時期(〇は1つ)

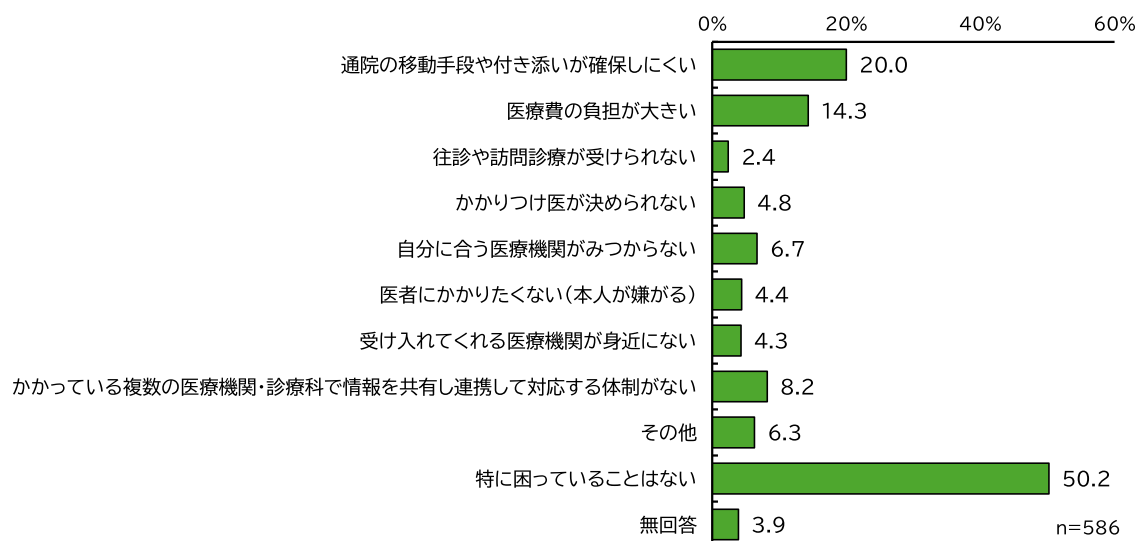
暮らしを実現する時期は、「実現できるかわからない」が48.3%と最も多くなっています。



あなたが、医療機関の利用で困っていることは何ですか。(あてはまるすべてに〇)

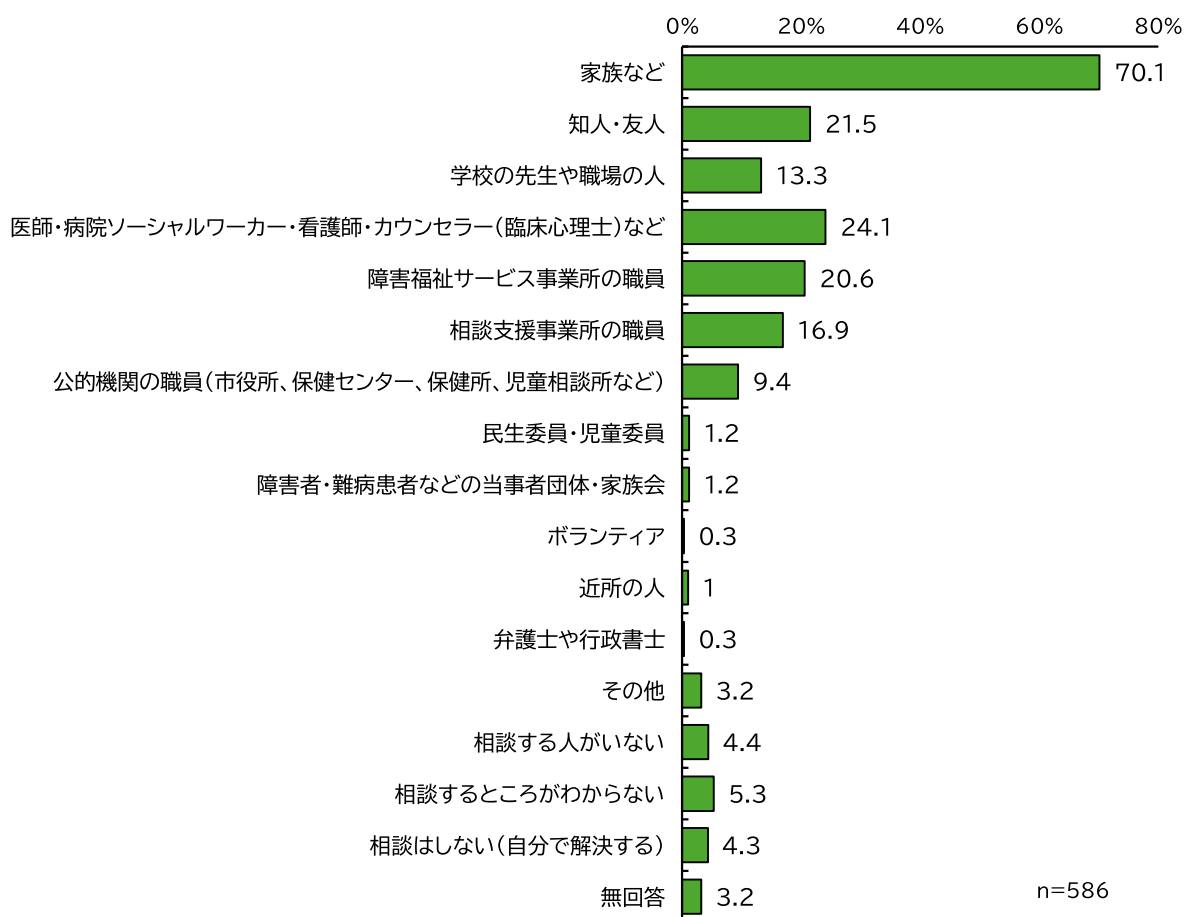
医療機関の利用で困っていることは、「通院の移動手段や付き添いが確保しにくい」が20.0%と最も多く、次いで「医療費の負担が大きい」が14.3%、「かかっている複数の医療機関・診療科で情報を共有し連携して対応する体制がない」が8.2%となっています。

一方、「特に困っていることはない」が50.2%となっています。



あなたが生活をしていく上で、悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

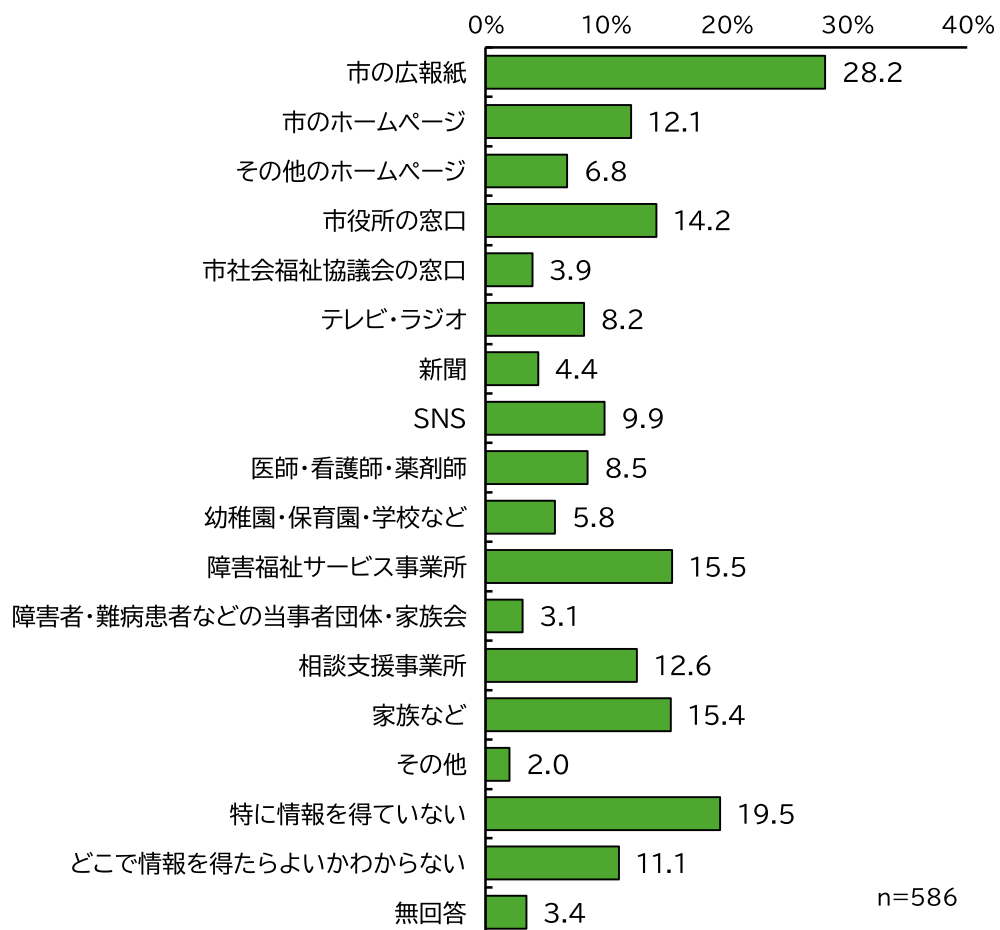
悩みや困りごとの相談相手は、「家族など」が70.1%と最も多く、次いで「医師・病院ソーシャルワーカー・看護師・カウンセラー(臨床心理士)など」が24.1%、「知人・友人」が21.5%となっています。



あなたは、どこから福祉の情報を収集していますか。(〇は3つまで)

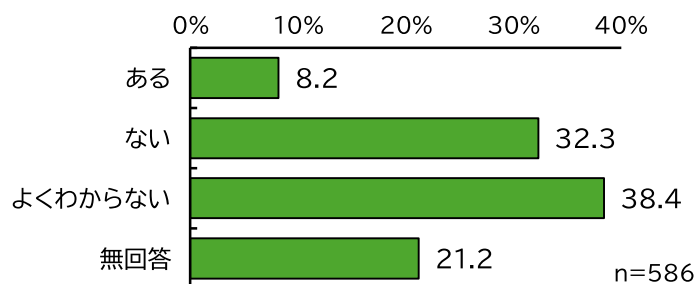
福祉の情報の入手先については、「市の広報紙」が28.2%と最も多く、次いで「障害福祉サービス事業所」が15.5%、「家族など」が15.4%となっています。

また、「特に情報を得ていない」が19.5%、「どこで情報を得たらよいかわからない」が11.1%となっています。



障害福祉サービスについて、利用したいけれど、利用できない・利用しにくいサービスはありますか。(〇は1つ)

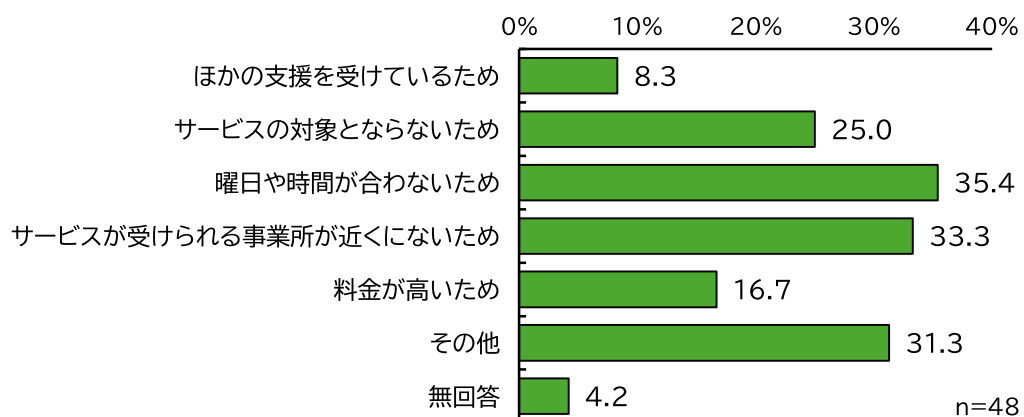
障害福祉サービスについて、利用したいけれど利用できない、利用しにくいサービスについては、「ある」が8.2%、「ない」が32.3%、「よくわからない」が38.4%となっています



【「ある」を選んだ方にうかがいます】

主な理由を教えてください。(あてはまるすべてに〇)

利用できない、利用しにくいサービスがある理由については、「曜日や時間が合わないため」が35.4%と最も多く、次いで「サービスが受けられる事業所が近くにないため」が33.3%となっています。



第3章

計画の基本理念と基本方針

1 計画の基本理念

認め合い 誰もが安心して とともに暮らせるまち 東松山の推進

本市ではこれまで、「認め合い、支え合い、ともに暮らすまち」の考え方のもと、障害のある人もない人も分け隔てられることなく、地域でともに暮らす社会の実現に向け、各種施策を推進してきました。

しかしながら、今回実施したアンケート調査及びヒアリング調査の結果からは、障害に対する理解が十分に浸透していないことが明らかとなりました。また、生活の多くを家族が支えている現状や、介護者の高齢化、将来の暮らしに対する不安の大きさなど、地域で安定した生活を継続していくための基盤に課題があることも浮き彫りとなっています。

さらに、就労や社会参加の機会が限られていること、教育や子育てにおける支援体制が十分とは言えないことなど、ライフステージ全体を通じた切れ目のない支援の必要性も明らかとなっています。

こうした状況に加え、障害のある人一人ひとりの生活様式や価値観、ニーズの多様化が進む中で、画一的な支援ではなく、それぞれの状況に応じたきめ細かな対応が求められています。

これらの課題を踏まえ、本計画では、これまでの理念を継承しつつ、障害のある人の権利の尊重と自己決定の支援を基盤とし、就労や社会参加の促進、教育・子育て支援の充実、さらには医療・福祉・生活支援が連携した地域生活支援体制の強化を一体的に推進していく必要があります。

そのためには、市民一人ひとりが障害に対する理解を深めるとともに、地域全体で支え合う意識を醸成し、障害のある人の権利や尊厳が守られ、必要な配慮や支援が行われる地域づくりを進めていくことが重要です。

また、当事者が安心して相談できる体制の整備や、わかりやすい情報提供を通じて、誰もが適切な支援につながることをできる仕組みの構築も求められます。

このような考えのもと、本計画の基本理念として、「認め合い 誰もが安心して とともに暮らせるまち 東松山の推進」を掲げ、すべての市民が地域の中で尊重され、自分らしく安心して暮らし続けることができる社会の実現を目指します。

◆市民福祉プラン(東松山市障害者計画)のこれまでの取組

「市民福祉プランひがしまつやま」(平成10年策定)では、“手帳の有無や障害の種別に関わらず必要な人がサービスを利用できる仕組みの構築”をテーマに掲げ、“ともに生き、暮らし分け合う、安心・自立のまちづくり”を基本方針としてきました。

「第二次市民福祉プラン」(平成19年策定)では「ともに暮らすまち、東松山の実現」を基本理念に掲げ、地域社会における共生を明確に打ち出しました。

「第三次市民福祉プラン」(平成29年策定)では「認め合い、支え合い、ともに暮らすまち東松山の推進」を基本理念に掲げ、すべての人が自らの意思により、その人らしく生活すること、つまりは主体性を発揮し、自己実現を図ることにより、互いを尊重し、それを後押しする地域づくりを行うことを目指しています。

計画の推進に当たっては、市の各種施策のほか東松山市地域自立支援協議会等を中心に、保健、医療、保育、教育、就労支援等の関係機関や民生委員・児童委員など地域の人々との連携を進め、障害のある人が地域社会で暮らすための課題解決に取り組んでいます。

第三次市民福祉プラン
後期計画の評価・振
り返りに差し替え予定

2 施策の基本方針と基本施策

第四次市民福祉プランでは、基本理念のもと、本市が進める障害者施策の基本方針として次の4つを定めます。

方針1 互いに認め合い、障害者の権利を守る地域づくり

市民がお互いを尊重し合うことは、支え合いのまちづくりを進める上では欠くことができません。また、障害のある人が様々な場面で不利益を被らないために、成年後見制度の利用を促進するための法定後見人・市民後見人の育成や共生社会についての理解促進を図り、地域全体で「互いに認めあい、障害者の権利を守る」ことに取り組みます。

あわせて、障害に対する正しい理解促進のための広報・啓発活動、地域における交流機会の創出を通じて、障害のある人となない人がともに暮らすことを当たり前とする意識の醸成を図ります。また、虐待や差別等に関する相談支援体制の充実や合理的配慮の提供の促進により、障害のある人の権利擁護を地域全体で支えていきます。

○これまでの本市での取組

本市では、障害の有無にかかわらず誰もが地域で安心して暮らせる共生社会の実現に向け、障害理解の促進と権利擁護の推進に取り組んできました。広報や出前講座などを活用し、障害に関する啓発を進めるとともに、難病や内部障害、発達障害、高次脳機能障害など外見からは分かりにくい障害への理解促進にも努めてきました。

また、市民福祉センターや市民活動センター等を活用し、障害のある人となない人が地域で交流し、共に活動できる機会の充実を図るとともに、各種講座や活動への参加促進に取り組んできました。さらに、当事者団体との意見交換や情報提供を通じて、障害のある人の声を施策に反映する仕組みづくりを進めてきました。

権利擁護の分野では、東松山市成年後見センターを中核機関として位置付け、成年後見制度の利用促進や普及啓発を推進してきました。また、障害者虐待防止センターや相談窓口の周知を図るとともに、関係機関と連携しながら虐待防止や差別への対応に取り組み、障害のある人の権利を守る地域づくりを進めてきました。

方針2 とともに育ちともに学ぶ地域づくり

障害のあるなしに関わらず、すべてのこどもが地域の中でともに育ち、ともに学ぶことができる環境づくりを進めます。乳幼児期においては、早期発見・早期療育の視点を踏まえた相談支援体制の充実を図るとともに、安心して子育てができる環境整備を進めます。

また、学齢期においても、関係機関が連携しながら切れ目のない支援体制を構築し、こども一人ひとりの状況に応じた支援を行います。保健、医療、福祉、教育等の分野が横断的に連携することで、「ともに育ち、ともに学ぶ」実践を地域全体で支え、誰もが成長し合える地域の実現を目指します。

○これまでの本市での取組

本市では、乳幼児期から学齢期に至るまで切れ目のない支援を実現するため、母子保健、児童福祉、障害福祉、教育などの関係機関が連携し、相談支援や情報提供、必要なサービスの利用支援に取り組んできました。

また、保健センターやこども家庭センター等において発達に関する相談支援を実施するとともに、関係機関との連絡調整を行い、こどもの発達特性に応じた継続的な支援体制の整備を進めてきました。保育園や幼稚園、学童保育では、障害のあるこどもの受入れを進めるため、施設整備や職員配置への支援を行うとともに、専門職による巡回支援や職員研修を実施し、支援の質の向上に努めてきました。

学校教育においては、障害児介助員の配置や教職員研修の充実を図るとともに、児童生徒一人ひとりの特性に応じた支援を推進してきました。また、小・中学校と特別支援学校との交流や、進級・進学時における適切な支援を進めるなど、「ともに育ち、ともに学ぶ」理念に基づく教育環境の充実に取り組んできました。

方針3 多様な社会参加を支援する地域づくり

障害のある人が自らの希望や適性に応じて、多様な形で社会に参加できる地域づくりを進めます。就労の分野においては、働く場の確保や就労定着支援の充実を図るとともに、本人の意思に応じたステップアップやチャレンジが可能な支援体制を整備します。

また、外出や余暇活動への支援、スポーツ・文化芸術活動への参加促進を通じて、その人らしい社会参加の実現を支えます。さらに、意思疎通支援や情報のバリアフリー化を推進し、必要な情報を得やすい環境を整えることで、障害のある人の主体的な社会参加を後押しします。

○これまでの本市での取組

本市では、障害のある人が自らの希望や能力に応じて社会参加できる地域づくりを進めてきました。就労支援においては、障害のある人の雇用促進や職場での合理的配慮について事業者への働きかけを行うとともに、企業、就労支援機関、行政等によるネットワークづくりや情報共有を進めてきました。また、本人の希望や適性に応じた就労支援や、一般就労と福祉的就労を含めた多様な働き方の支援に取り組んできました。

社会参加の促進に向けては、スポーツ、文化芸術活動への参加機会の充実や情報提供を進めるとともに、障害のある人の活動成果の周知や交流の促進に取り組んできました。また、意思疎通支援事業や手話通訳者の派遣、手話奉仕員の養成などによりコミュニケーション支援の充実を図るとともに、広報紙の音声版・点字版の発行、ウェブアクセシビリティの向上、電子図書館等の活用を通じて、情報バリアフリーの推進に努めてきました。

方針4 誰もが安心して安全に暮らせる地域づくり

「障害のある人にとって暮らしやすいまちとは障害のない人にも暮らしやすいまちである」という考えに基づく社会環境の改善や、災害時をはじめとする緊急時の支援体制の強化により、障害のあるなしに関わらず安心して安全に暮らせる地域をつくります。

また、相談しやすい体制の整備と相談支援の質の向上を図るとともに、関係機関の連携により、本人や家族を含めた包括的な支援を行います。

あわせて、保健・医療との連携を強化し、医療的ケアが必要な人など、地域で適切な支援が受けられるよう、保険・医療との連携を強化します。

○これまでの本市での取組

本市では、障害のある人が住み慣れた地域で安心して安全に暮らし続けられるよう、相談支援体制の充実や地域生活を支える基盤づくりに取り組んできました。また、広報紙やホームページ、各種ガイドブック等を活用し、必要な制度やサービスに関する情報提供の充実に努めてきました。

地域生活の支援においては、地域生活支援拠点等の運営を通じて、緊急時にも対応できる支援体制の構築を進めるとともに、在宅サービスやグループホームなどの住まいの確保、地域定着支援の推進に取り組んできました。さらに、医療機関や障害福祉サービス事業所との連携を進め、医療的ケアが必要な人を含め、それぞれの状況に応じた支援体制の充実を図ってきました。

また、避難行動要支援者名簿や個別避難計画の整備、福祉避難所の運営体制の強化、防災関係機関や地域との連携を進めるなど、防災・減災対策や、地域における支え合い活動の推進、ボランティア活動への支援にも取り組んできました。

3 第四次市民福祉プラン施策体系図及び「めざす姿」

理念	基本方針	基本施策	めざす姿	施策
認め合い 誰もが安心して ともに暮らし 東松山の推進	方針 1 互いに認め合い、 障害者の権利を守る 地域づくり	障害への理解促進	障害のある人の状況や意見を踏まえ、障害に関する啓発活動を行うと共に、地域での様々な交流を通じて、障害に対する市民の理解が広がり、市民がともに暮らしを共通認識とすること。	広報・啓発活動の推進 地域交流の促進 当事者ニーズ等の把握
		障害者の権利擁護	成年後見制度利用を支援する仕組みが整っていること。 また、地域において権利擁護の理解や合理的配慮の提供が進むとともに、虐待や差別等に係る相談に適切に対応し、障害のある人の権利が守られること	成年後見制度の利用促進と支援機関等の拡充 障害者虐待の防止 障害者差別の解消 その他の権利擁護
	方針 2 ともに育ちともに学ぶ 地域づくり	未就学児への支援の充実	乳幼児期において、早期発見・早期療育を念頭に、相談や支援体制を充実させるとともに、障害のあるなしに関わらず子どもたちが地域の中でともに育ちあうための適切な環境がソフト・ハードの両面から整うこと	相談支援の充実 支援体制の強化 インクルージョンの推進
		切れ目のない支援体制の整備と横断的連携の強化	組織の違いを超えて関係機関等が互いに連携を図りながら「ともに学ぶ」実践が確実に進められるよう、切れ目のない支援していくこと	切れ目のない支援体制の整備と横断的連携の強化
		就学児への支援の充実	学齢期において、相談や支援体制を充実させるとともに、障害のあるなしに関わらず子どもたちが地域の中でともに育ちあい、学びあうための適切な環境がソフト・ハードの両面から整うこと。	相談支援の充実 支援体制の強化 インクルージョンの推進
	方針 3 多様な社会参加を 支援する地域づくり	就労支援の充実	本人の希望や適性にあった就労に係る選択や就労後の定着を支援するとともに、多様な働き方ができる雇用の場が創出・拡大されること。 また、本人の意思や状況に応じてステップアップや何度でもチャレンジできる支援体制が整備されること	雇用の場の拡充 福祉的就労の充実
		社会参加の支援	外出支援や余暇支援が充実し、地域で行われるスポーツ活動や芸術文化活動への参加が促進されることで、その人らしい様々な社会参加ができること	外出支援の充実 スポーツ活動・芸術文化活動の促進
		コミュニケーション支援の充実	コミュニケーションに支援が必要な人の意思疎通を支援するとともに、情報のバリアフリー化を進め、必要な情報が得やすくなることで、障害のある人の社会参加が進むこと	意思疎通支援の拡充 情報バリアフリー化の推進 手話を使いやすい環境の整備
	方針 4 誰もが安心して 安全に暮らせる 地域づくり	相談支援の充実	相談しやすい体制を整え、必要な相談支援が受けられること。相談支援にあたっては、質の向上を図るとともに、家族への支援も含め、関係機関等と連携を図りながら支援にあたること	相談機能の強化 家族支援の充実
		安全な暮らしの確保	災害に備え、避難行動要支援者支援制度をはじめとする防災対策を推進するとともに、災害以外の命や安全に関わる緊急時に、必要な支援が迅速に提供される体制を整備すること。また、バリアフリーを推進し、暮らしやすいまちづくりを進めること	防災対策の推進 バリアフリーの推進 緊急時連絡体制の整備
		地域の支援体制の充実	本人の希望や意思を尊重し、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、多様な支援が地域に用意されること。提供されるサービスの質を確保するとともに、必要な支援が適切に受けられるよう支援すること	公的支援の拡充 サービスの質の確保 支え合いの担い手の確保・定着
		保健・医療との連携強化	保健・医療等の関係機関との連携を強化し、医療的ケアが必要な人や難病のある人、障害のある人などが地域において適切な支援を受けられること。	医療的ケア児・者への支援 保健・医療との連携強化

第4章

障害者・障害児施策の推進

基本方針1 互いに認め合い、障害者の権利を守る地域づくり

基本施策1 障害への理解促進

【めざす姿】

障害のある人の状況や意見を踏まえ、障害に関する啓発活動を行うと共に、地域での様々な交流を通じて、障害に対する市民の理解が広がり、市民がともに暮らすまちを共通認識とすること。

施策1 広報・啓発活動の推進

番号	取組
1	“ともに暮らすまち”を実現するため、事業者・団体等を含め広く市民に対し、障害に対する理解が促進されるようきらめき出前講座や広報紙への掲載等啓発活動を行います。
2	研修等で当事者や家族の体験や意見を聞く機会の設定や、アンケート結果の公表等当事者の声を発信することで、障害への理解を促進します。
3	難病や内部障害、精神障害（発達障害、高次脳機能障害を含む）など、周囲から分かりにくい障害をはじめ、障害に対する正しい認識と理解が得られるよう、ヘルプマークの普及啓発等を通じて啓発活動を行います。

施策2 地域交流の促進

番号	取組
4	市民活動センター等地域で行われる講座やスポーツ教室などに障害のある人が参加しやすいよう、配慮や工夫をすることで、地域交流を促進します。
5	地域活動支援センターを中心に、地域で生活する障害のある人の相談や希望に応じ、地域との交流促進等の援助を総合的にを行います。

施策3 当事者ニーズ等の把握

番号	取組
6	市と当事者団体が意見交換を行う場を設けます。併せて、必要な制度やサービス等の情報提供を行います。
7	相談支援事業所連絡会議や担当国会議など、市と相談支援事業所が情報共有を行うほか、調査の実施等を通じて、当事者ニーズ等を把握します。

基本施策2 障害者の権利擁護

【めざす姿】

成年後見制度利用を支援する仕組みが整っていること。また、地域において権利擁護の理解や合理的配慮の提供が進むとともに、虐待や差別等に係る相談に適切に対応し、障害のある人の権利が守られること。

施策1 成年後見制度の利用促進と支援機関等の拡充

番号	取組
8	東松山市成年後見センターを中核機関として、会議の開催等を通じて地域連携ネットワークを構築し、成年後見制度の利用を支援します。
9	きらめき出前講座や東松山市成年後見センターによる研修会の実施等、成年後見制度に係る啓発活動を行います。
10	市長による審判の申立てや成年後見人等への報酬の助成をする東松山市成年後見制度利用支援事業を継続して実施します。
11	東松山市成年後見センター及び基幹相談支援センター事業により、市民後見人・法人後見人の担い手育成のための研修等を実施します。

施策2 障害者虐待の防止

番号	取組
12	広報紙の掲載や基幹相談支援センター事業による研修の実施等を通じて、虐待防止や相談窓口について周知啓発を行います。
13	警察や医療機関等の関係機関及び庁内各課が連携して虐待対応を行い、障害のある人の権利を擁護します。

施策3 障害者差別の解消

番号	取組
14	障害のある人が合理的配慮を希望することを発信しやすくなるよう、障害者差別解消法の周知啓発を行います。
15	生活関連施設等が利用しやすく、また、様々な社会参加がしやすくなるよう、事業者等に対し、環境の整備や合理的配慮の提供について周知啓発を行います。
16	障害者福祉課内に設置した障害者差別に関する相談窓口へ寄せられた相談に応じ、差別事案について障害のある人の人権を擁護します。
17	障害者差別解消支援地域協議会において、地域における障害を理由とする差別事例の情報共有を行い、その解消に向けた取組について協議します。

施策4 その他の権利擁護

番号	取組
18	消費者被害の相談窓口として、消費生活センターを周知し、相談に応じることで、消費者トラブルに係る障害のある人の権利を擁護します。

基本方針2 とともに育ちともに学ぶ地域づくり

基本施策1 未就学児への支援の充実

【めざす姿】

乳幼児期において、早期発見・早期療育を念頭に、相談や支援体制を充実させるとともに、障害のあるなしに関わらずこどもたちが地域の中でともに育ちあうための適切な環境がソフト・ハードの両面から整うこと。

施策1 相談支援の充実

番号	取組
1	就学前の心身の発育や発達に心配のあるこどもと保護者を対象に、乳幼児健康相談等を通じて情報提供や相談支援を行います。
2	身近な場所で相談に乗れるよう、子育て支援センターで保育士や言語聴覚士等の専門職による発達に関する相談機会を設定します。

施策2 支援体制の強化

番号	取組
3	障害のあるこども等へ加配保育士を配置する場合の雇用に係る費用や、建物の構造改善に対し、補助金を交付することで、保育の環境と質の向上を図ります。
4	関係機関と連携し、理学療法士や心理士等の専門職が保育園等を巡回して、障害のあるこども等への関わりや接し方について助言を行い、在園生活を支援します。併せて、障害のあるこどもの保育に関わる職員の専門性の向上に取り組みます。

施策3 インクルージョンの推進

番号	取組
5	“ともに育ち、ともに学ぶ” 地域の実現に向け、障害のあるこども等が、保育園等に安心して通えるよう、統合保育実施会議の実施等を通じ関係機関と連携して受け入れ体制の充実を図り、インクルージョンを推進します。
6	児童発達支援の支給決定にあたっては、インクルージョンの推進と、必要な支援を適切に提供する観点から、関係機関からの情報収集等を踏まえた上で、支給の可否や必要な量を適切に判断します。

基本施策2 切れ目のない支援体制の整備と横断的連携の強化

【めざす姿】

組織の違いを超えて関係機関等が互いに連携を図りながら「ともに学ぶ」実践が確実に進められるよう、切れ目のない支援していくこと。

施策1 切れ目のない支援体制の整備と横断的連携の強化

番号	取組
7	地域の発達支援に関する入口としての相談機能について、「こどもの発達相談窓口」をインターネット上に設置し、障害福祉部門、児童福祉部門、母子保健部門、教育部門が連携して対応します。
8	“ともに育ち、ともに学ぶ” 地域の実現に向け、未就学児が就学するにあたり、適切な就学先の選択について、就学相談や行動観察、学校体験などの支援を行います。
9	障害のあるこども等の状況や必要に応じて、母子保健部門、児童福祉部門、障害福祉部門、教育部門等の関係機関が連携し、情報共有や、サービス利用も含めた相談など、切れ目のない支援を行います。

基本施策3 就学児への支援の充実

【めざす姿】

学齢期において、相談や支援体制を充実させるとともに、障害のあるなしに関わらずこどもたちが地域の中でともに育ちあい、学びあうための適切な環境がソフト・ハードの両面から整うこと。

施策1 相談支援の充実

番号	取組
10	小・中学校、総合教育センター、特別支援学校等が連携を深め、特別支援学校のセンター的機能であるコーディネーター派遣等を活用し、在籍する児童・生徒に適切な支援を行います。
11	進級や進学、転籍や転学の際には、就学相談調整会議を活用し、適切な支援が受けられるようにします。

施策2 支援体制の強化

番号	取組
12	児童・生徒一人ひとりの特性に応じた支援体制確保のため、障害児介助員の配置について、必要な人数を確保するとともに、校外での活動など様々な状況に対応できる配置に取り組みます。
13	障害のあるこどもの教育に関わる職員の資質向上のための研修に積極的に取り組みます。

施策3 インクルージョンの推進

番号	取組
14	“ともに育ち、ともに学ぶ” 地域の実現に向け、障害のあるこども等が、小・中学校に安心して通えるよう、適切な人員配置に努め、受け入れ体制の充実を図り、インクルージョンを推進します。
15	障害のある児童・生徒の希望に応じ、特別支援学校や地域の小・中学校に支援籍を置くことにより、同じ学校のクラスメイトとしての学習活動を行えるよう、各学校は相互に受け入れます。
16	放課後児童クラブにおいて、障害のある児童等を受け入れます。
17	放課後等デイサービスの支給決定にあたっては、インクルージョンの推進と、必要な支援を適切に提供する観点から、関係機関からの情報収集等を踏まえた上で、支給の要否や必要な量を適切に判断します。

基本方針3 多様な社会参加を支援する地域づくり

基本施策1 就労支援の充実

【めざす姿】

本人の希望や適性にあった就労に係る選択や就労後の定着を支援するとともに、多様な働き方ができる雇用の場が創出・拡大されること。

また、本人の意思や状況に応じてステップアップや何度でもチャレンジできる支援体制が整備されること。

施策1 雇用の場の拡充

番号	取組
1	心身の状況や障害特性に応じた多様な働き方ができるよう、東松山市障害者就労支援センターが企業に働きかけます。
2	市は、人事部門と障害福祉部門が連携し、障害者就労支援センターも活用しながら、就労困難性の高い人に対して積極的に実習等の機会を提供します。
3	市は、募集方法及び雇用形態の見直しを通して、障害者雇用促進法に定める法定雇用率を遵守します。また、職場への定着を支援するために障害者職業生活相談員を配置します。
4	市は、障害者雇用促進法及び同法に基づく合理的配慮指針にのっとり、均等な機会提供と待遇を確保し、障害のある人が能力を発揮できるよう、必要な職場改善等に取り組みます。
5	東松山市障害者就労支援センターは、市内の中小企業を中心に、当事者、企業、行政、就労支援機関のネットワークを構築します。その中で、障害のある人の雇用について、事業者間の情報共有を行い、雇用促進を働きかけます。
6	就労系障害福祉サービス事業所を利用している障害のある人が、就労選択支援を利用して一般就労へ向けたステップアップにつながるよう支援します。
7	就労時に介助が必要な人でも安心して働くことができる就労形態や支援体制について、個別の事情や状況等を確認しながら継続して検討します。

番号	取組
8	東松山市障害者就労支援センターにジョブコーチを配置し、幅広く障害のある人や当該企業の相談に応じ、職場適応を柔軟に支援します。また、やむなく障害のある人が離職した場合に、雇用していた企業への対応等継続した就労を確保するための支援を行います。

施策2 福祉的就労の充実

番号	取組
9	就労系障害福祉サービス事業者の商品を販売する場として、チャレンジドショップを引き続き実施し、工賃の向上や福祉的就労を支援します。
10	障害者就労施設等からの物品等の調達方針に基づき、就労系障害福祉サービス事業者からの物品の購入や業務委託の拡大を進めます。
11	生活介護事業所をはじめ、重度の障害のある人の働く場の確保を図ります。

基本施策2 社会参加の支援

【めざす姿】

外出支援や余暇支援が充実し、地域で行われるスポーツ活動や文化芸術活動への参加が促進されることで、その人らしい様々な社会参加ができること。

施策1 外出支援の充実

番号	取組
12	障害福祉サービス以外の外出や移動の支援について、継続実施するとともに、随時ニーズに合った支援方法を検討します。
13	市が実施するデマンドタクシーの利用がしやすいよう、障害者割引を適用し利用を促進します。

施策2 スポーツ活動・文化芸術活動の促進

番号	取組
14	地域で行われるスポーツ活動に、障害のある人も参加することを基本的な方針として実施するとともに、情報発信を充実させ障害のある人の参加を促進します。
15	障害のある人が行う文化芸術活動の発表の機会として障害者作品展を実施します。また、文化芸術活動やスポーツで功績のあった人を広く周知します。
16	字幕、音声ガイド、分かりやすい言葉等での説明の提供など、障害のある人に地域で行われる文化・芸術を鑑賞する機会の拡大を図ります。

基本施策3 コミュニケーション支援の充実

【めざす姿】

コミュニケーションに支援が必要な人の意思疎通を支援するとともに、情報のバリアフリー化を進め、必要な情報が得やすくなることで、障害のある人の社会参加が進むこと。

施策1 意思疎通支援の拡充

番号	取組
17	コミュニケーションに支援が必要な市役所来庁者に対して、意思疎通支援員や電子メモパッドでのコミュニケーションアプリを活用など、意思疎通についての支援を拡充します。
18	手話通訳や要約筆記の派遣を行う意思疎通支援事業により、コミュニケーションに支援が必要な人の地域生活を支援します。

施策2 情報バリアフリー化の推進

番号	取組
19	障害者が地域の様々な活動に参加できるよう、行政情報について、点字版、音声版及びデイジー版広報の作成、SNS など、情報アクセシビリティの向上を図ります。
20	障害福祉に関する冊子等に音声コードを付与し、分かりやすい言葉を使うなど障害のある人に配慮した情報提供を行います。
21	聴覚障害者等の社会参加を促進するため、電話を通じて円滑にコミュニケーションをとれるよう電話リレーサービスを広く周知します。
22	電子図書館（比企広域）を継続するほか、市立図書館及び高坂図書館に誰もが読書を楽しめるコーナー（りんごの棚）を設置し、読書環境のバリアフリー化に取り組みます。

施策3 手話を使いやすい環境の整備

番号	取組
23	聴覚障害者の生活や関連する福祉制度などを理解し、手話で日常会話を行うのに必要な手話技法を習得した手話奉仕員を養成します。
24	東松山市手話言語条例の基本理念にのっとり、手話に対する理解を促進します。
25	手話は言語であるという認識に基づき、聞こえない人と聞こえる人が手話により、意思疎通を行い、共生することを目指し、聴覚障害のある人をはじめとする関係者と協議しながら環境を整備します。

基本方針4 誰もが安心して安全に暮らせる地域づくり

基本施策1 相談支援の充実

【めざす姿】

相談しやすい体制を整え、必要な相談支援が受けられること。相談支援にあたっては、質の向上を図るとともに、家族への支援も含め、関係機関等と連携を図りながら支援にあたること。

施策1 相談機能の強化

番号	取組
1	市内の障害福祉サービス事業所の情報や、各種サービス・相談窓口等について市ホームページ等でわかりやすく情報提供します。
2	障害者相談支援事業により、福祉サービスの利用や社会資源の活用など、情報提供や相談等を総合的に行い、在宅の障害のある人やその家族の地域生活を支援します。
3	基幹相談支援センター事業等により、研修等の実施を通じて相談支援事業者の支援技術の向上・人材育成を図ります。
4	基幹相談支援センター事業により、利用者本位の相談支援が徹底されるよう、相談支援事業者への助言や指導等を行います。
5	ピアカウンセラー等自ら障害や疾病の経験を持つ人が、その経験を活かしながら、他の障害や疾病のある人の相談や支援を行います。

施策2 家族支援の充実

番号	取組
6	障害のある人の家族が求める情報や支援などニーズを把握し、東松山市地域自立支援協議会も含め取組等を検討します。
7	ケアラー自身の健康や生活が尊重されるよう、関係機関と連携を図り、介護負担の軽減や孤立の防止に努めます。

基本施策2 安全な暮らしの確保

【めざす姿】

災害に備え、避難行動要支援者支援制度をはじめとする防災対策を推進するとともに、災害以外の命や安全に関わる緊急時に、必要な支援が迅速に提供される体制を整備すること。また、バリアフリーを推進し、暮らしやすいまちづくりを進めること。

施策1 防災対策の推進

番号	取組
8	避難行動要支援者避難支援制度を周知し、必要な人の登録を進めます。また、登録者については、個別避難計画の策定を推進します。
9	避難行動要支援者避難支援制度に登録した障害当事者を中心に地域で避難訓練を実施することで、顔の見える関係づくりや助け合いを推進します。
10	障害のある人が発災後、避難所で安全に過ごせるよう設備や人材の充実を図るとともに、障害特性に対し適切な避難先の設定を個別に進めます。
11	地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の人材育成、要配慮者への対応の周知等に取り組みます。
12	地域防災計画に基づき、災害発生等により避難所等で生活する障害のある人やその家族に対し、必要な支援や情報伝達、配慮を行います。
13	事業所に対し感染症の流行に関する情報共有を図り、まん延防止に取り組みます。また、障害福祉サービスの提供について臨時的な取扱い等が国等から示された場合には、事業所に周知するとともに、必要な支援を行います。

施策2 バリアフリーの推進

番号	取組
14	施設所管課に働きかけ、公共施設のバリアフリー化を推進します。
15	生活関連施設の設計段階において、建築主が障害当事者の意見や助言を聞く場を設けることに関し、要請があったときに支援を行います。
16	自治集会施設について、障害のある人に配慮した環境整備・改善の支援を行います。

施策3 緊急時連絡体制の整備

番号	取組
17	手話通訳者派遣事業により、消防への緊急通報訓練を継続して実施するほか、コミュニケーションに支援が必要な人の警察、消防、医療機関への連絡方法について、改善を行います。
18	災害時における障害のある人の安否確認について、安否確認マニュアルの共有やテストメールの送受信を行い、市内相談支援事業所及び障害福祉サービス事業所と共通認識を持ち、連絡体制を維持します。

基本施策3 地域の支援体制の充実

【めざす姿】

本人の希望や意思を尊重し、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、多様な支援が地域に用意されること。提供されるサービスの質を確保するとともに、必要な支援が適切に受けられるよう支援すること。

施策1 公的支援の拡充

番号	取組
19	障害のある人が、住み慣れた住宅や地域で生活できるよう、在宅サービス等必要なサービス事業所の開設支援や、地域定着支援の拡充を進めます。
20	東松山市地域生活支援拠点等事業により、親亡き後も含め、障害のある人が地域で安心して暮らすために、地域の支援体制の構築を進めます。
21	複合的な課題を抱えた障害のある人やその世帯について、支援者が関係機関と連携し包括的なサポートができるよう、研修の相互参加など体制の整備に努めます。
22	入所施設を利用している人や利用を希望している人が、地域での生活を選択できるよう支援を行います。
23	高次脳機能障害のある人や難病のある人が、必要なサービスや制度につながるよう、支援します。
24	東松山市障害者生活支援センターについて、その役割と機能をより有用に活用できるよう協議します。

施策2 サービスの質の確保

番号	取組
25	福祉事業者の人材の確保のため、就職説明会等を実施します。
26	市が指定している特定相談支援事業所及び障害児相談支援事業所に対し、運営指導等を行い、相談支援の質の確保を図ります。
27	市内の入所支援施設やグループホームが実施する地域連携推進会議に市の職員が参加し、サービス提供体制の質の向上や透明性の確保に取り組みます。日中サービス支援型グループホームについては、比企地域自立支援協議会で事業評価を行います。

施策3 支え合いの担い手の確保・定着

番号	取組
28	障害のある人自身も含め、ボランティアなど、地域における支え合いの担い手を養成します。
29	関係機関へ働きかけるとともに、ボランティアセンターと連携を図り、障害のある人が集まる場所へボランティア等が継続して活動できるよう支援します。

基本施策4 保健・医療との連携強化

【めざす姿】

保健・医療等の関係機関との連携を強化し、医療的ケアが必要な人や難病のある人、障害のある人などが地域において適切な支援を受けられること。

施策1 医療的ケア児・者への支援

番号	取組
30	医療的ケアが必要な障害のある人が、地域において必要な支援を受けられるよう、関係機関と協議を行います。
31	医療的ケア児等コーディネーターをはじめ、関係機関と連携し、医療的ケアが必要な障害のある人やその家族が適切な支援を受けられるよう、情報提供や支援を行います。
32	医療的ケアが必要な障害のある人が利用できる社会資源の確保に取り組みます。

施策2 保健・医療との連携強化

番号	取組
33	比企地域自立支援協議会をはじめ、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に取り組みます。
34	障害のある人が地域の医療機関を受診しやすいよう、バリアフリー化や往診等の対応状況について、情報提供します。
35	難病のある人の安心・安全な生活について、保健所と連携を強化し、支援を充実します。地域の支援者等に対し、研修の実施等を通じて、疾病特性や生活課題等の理解を促進します。

第5章

計画の推進

1 計画の推進体制

本計画は、当事者を含む市民、事業者と行政との協働によって推進します。

行政の取組に関しては障害福祉担当課が中心となり、庁内各部門と連絡調整を図りながら推進していきます。

障害のある人（当事者）・市民・市民団体・事業者・関係機関の取組に関しては、それぞれが主体的に取り組むことを基本とし、行政はこれに対する支援や啓発を行うこととします。

障害者施策の進捗状況については、庁内各部門の施策進捗を障害福祉担当課で取りまとめ、その結果を東松山市障害者計画等策定委員会で報告するとともに、庁内各部門や東松山市地域自立支援協議会によって一層の推進と改善に向けた協議を行います。

2 東松山市地域自立支援協議会について

市は、障害のある人となない人が、互いに尊重し合いながらともに暮らす共生社会を実現するために、地域における課題について協議し、解決を目指す東松山市地域自立支援協議会を設置しています。

東松山市地域自立支援協議会

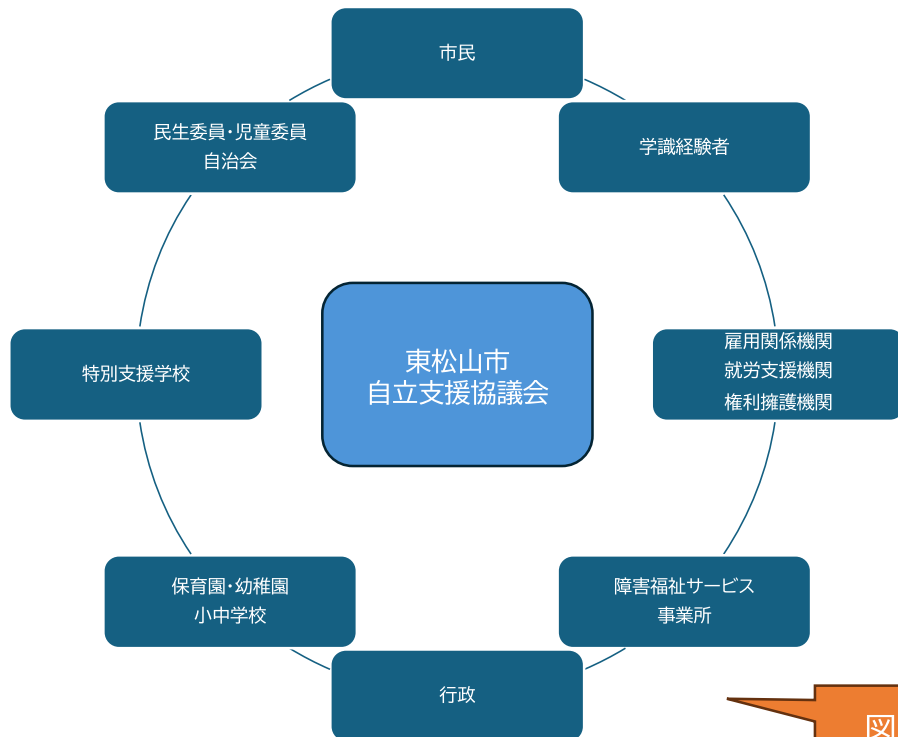
障害者総合支援法第 89 条の 3 に規定される協議会で、市と障害者福祉に係る関係機関が障害のある人への地域における支援体制に係る課題を共有し、地域の支援体制の整備について協議を行います。

【所掌事項】

- 市民福祉プラン及び障害福祉計画・障害児福祉計画の進捗状況の評価及び進捗管理
- 相談支援の中立性・公平性の確保
- 関係機関職員等への研修
- 当事者と地域との関係づくり
- 新たな地域課題への対応
- 地域の関係機関の連携
- 関係機関の業務上課題となった事項への対応

【東松山市地域自立支援協議会の構成】

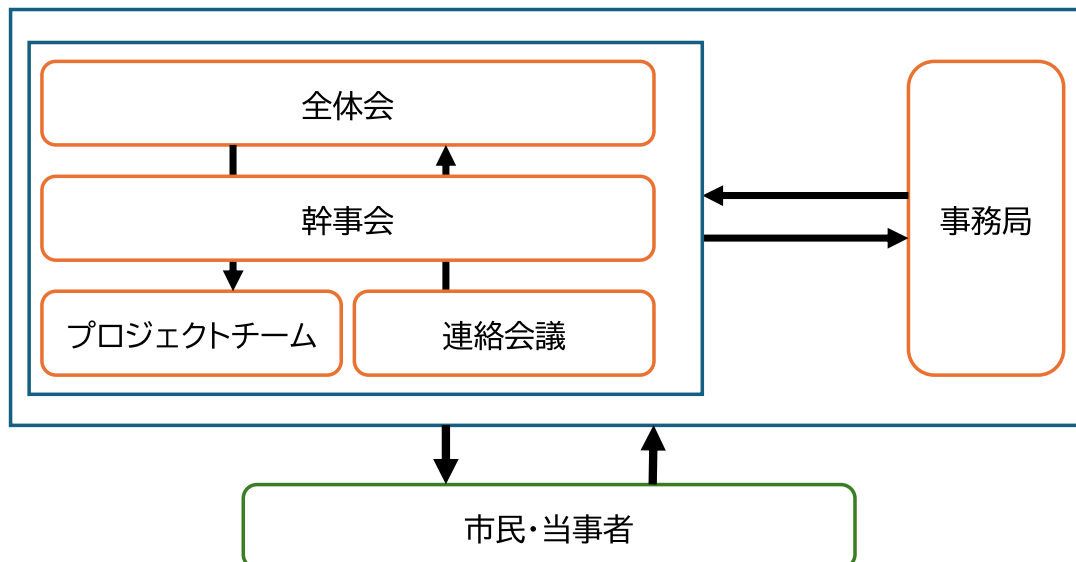
市民、障害福祉サービス事業所、学校、関係団体、関係機関、行政等で構成されています。



図の差し替え依頼中

【東松山市地域自立支援協議会の組織】

全体会、幹事会、プロジェクトチーム・連絡会議から成り立っています。



3 比企地域自立支援協議会について

市では、東松山市地域自立支援協議会の外、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、ときがわ町、東秩父村の比企地域 7 町村と共同で比企地域自立支援協議会を設置しています。

比企地域自立支援協議会

障害者総合支援法第 89 条の 3 に規定される協議会で、比企地域の相談支援事業の中立・公平な運営の確保、関係機関の連携並びに社会資源の開発及び改善等の推進を目的としています。

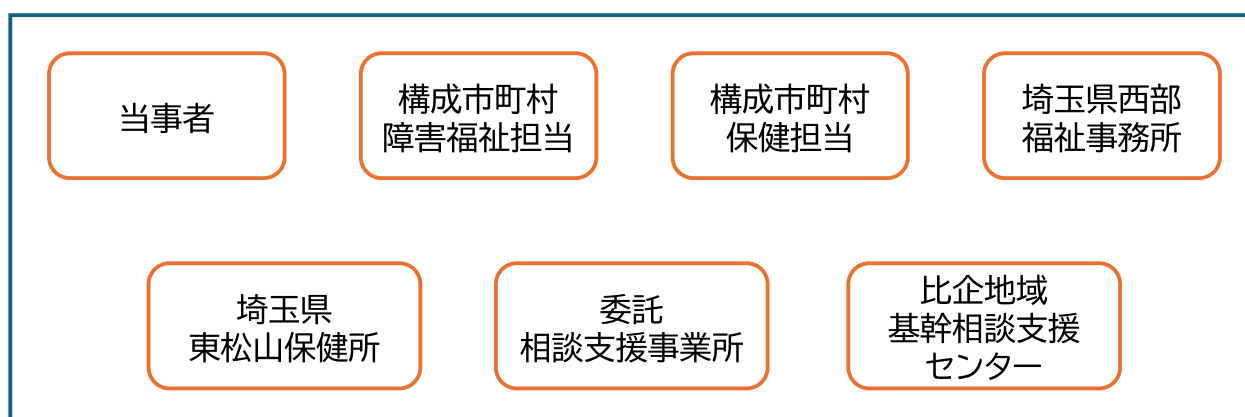
協議会は、障害のある人、埼玉県西部福祉事務所、埼玉県東松山保健所、委託相談支援事業所、比企地域基幹相談支援センター、行政で構成されています。

【所掌事項】

- 相談支援事業者の中立・公平性の確保に関すること
- 地域の関係機関の連携に関すること
- 社会資源の開発及び改善等に関すること
- 広域的課題に関すること

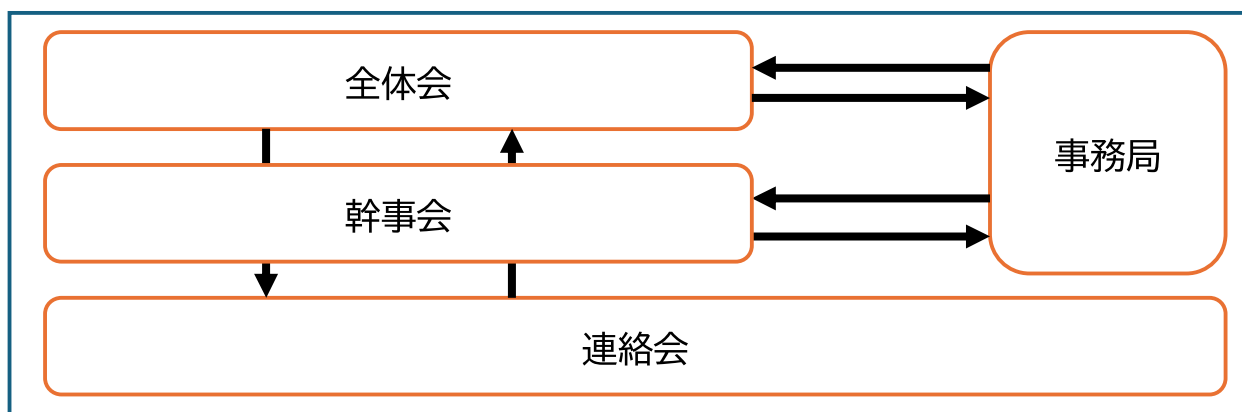
【比企地域自立支援協議会の構成】

障害のある人、埼玉県西部福祉事務所、埼玉県東松山保健所、委託相談支援事業所、比企地域基幹相談支援センター、行政で構成されています。



【比企地域自立支援協議会】

全体会、幹事会、連絡会から成り立っています。



全体会は、構成市町村の障害福祉担当課長・保健担当課長、埼玉県西部福祉事務所の責任者、埼玉県東松山保健所の責任者、委託相談支援事業所の責任者及び比企地域基幹相談支援センターの責任者で構成され、所掌事項のうち重要な事項について協議を行います。

幹事会は、構成市町村の障害福祉実務担当者・保健実務担当者、埼玉県西部福祉事務所実務担当者、埼玉県東松山保健所実務担当者、委託相談支援事業所相談員、基幹相談支援センター担当者及び当事者で構成され、所掌事項の調査・研究・協議を行います。

連絡会は、幹事会委員及び関係機関の実務担当者で構成され、以下の4つの連絡会を設置しています。

【比企地域自立支援協議会連絡会】

- ①障害福祉サービス事業所連絡会
- ②委託相談支援事業所連絡会
- ③精神障害者の安心した地域生活を支える連絡会
- ④障害者就労支援連絡会

資料編

1 東松山市障害者計画等策定委員会委員名簿

選出区分	所属等	氏名

2 東松山市障害者計画等策定委員会条例

○東松山市障害者計画等策定委員会条例

3 計画の策定経過

回	開催日時	主な議題

東松山市第四次市民福祉プラン(東松山市障害者計画)

発行 令和9年3月

編集 東松山市 健康福祉部 障害者福祉課
〒355-8601

埼玉県東松山市松葉町1丁目1番58号

TEL 0493-21-1452

FAX 0493-24-6066
